

The University Times

February 2014 Vol. 32

<http://jtimes.jp/utimes>

produced by IELTS by Eiken × The Japan Times ©THE JAPAN TIMES, LTD. 2014

CONTENTS

■ Global Leader's Voice 明石 康さん(公益財団法人 国際文化会館) 1 2	■ Journalist's Eye 「空き家問題が深刻化」 「若手エンジニアを支援」 6	■ Studying Abroad in the U.S.A 私の米国留学 10	■ IELTS World IELTSテストのコツ 13
■ Global Leader's Voice 金田木綿子さん(三菱商事株式会社) ハンス・ボイスカーさん(Petronor) 3	■ News in English 英文記事を読んでみよう 7	■ Scholarship List 奨学金情報 11	■ IELTS World IELTS 対策コースナビ／攻略本 14
■ University's Challenge 埼玉大学 4 5	■ Visit a Global Company ダイキン工業株式会社 8 9	■ IELTS World IELTS Hot News 12	■ Study Abroad Benefits 留学で培う3つの力 15

Global Leader's Voice

グローバルリーダーインタビュー

Part 1

語学力がすべてではない 相手を理解する姿勢が肝要

Vol.2 明石 康さん 公益財団法人 国際文化会館 理事長

26歳で日本人初の国際連合職員となった明石康さんは、国連事務次長などを歴任し、民族紛争の解決に尽力してきた。これまでの英語との関わりや国連での仕事を振り返りながらグローバル化が進展する今、日本の若者が身につけるべき力や日本の英語教育のあり方について語ってくれた。

流暢な英語よりも 語るべき内容を持とう

「日本人は英語に対する完璧主義をかなり捨てておくべきではないでしょうか。世界ではいろいろな英語が話されています。訛りもあれば、クセもある。英語を母語とする人たちでも、誰もが完璧な英語を話しているわけではありません。アメリカ大統領でさえ、出身州の訛りで話しています。多少の訛りがあっても、誠意や情熱がこもっていれば、お互いに理解し合うことは十分可能なのです」。開口一番、明石康さんはこう述べた。

世界各国の人々が集まる国連。事務局での作業言語は英語とフランス語だが、実質的には英語が使われることが多い。「職員はそれぞれのお国訛りの英語を話しますが、誰もが堂々と議論し、理解し合い、仕事を進めます。訛りはむしろ、アイデンティティと言えます」と言い切る明石さんは、むしろ大切なのは、「お互いに理解し合おうという気持ちの強さであり、お互いの文化を尊重し、それを楽しもうという気持ち」だと感じている。一方で、日本では美德とされる謙虚さは、国際社会ではそれが過ぎると内向的な態度に映ってしまい、障壁にさえなるという。

「私が長年の経験から感じているのは、周りから信頼を得る人とは、流暢に言葉を話せるからではなく、話す内容の信頼性の高さにあります。事態をよく分析し、理解していることが評価されるのです。第5代国連事務総長を務めたペルー人のハビエル・ペレス・デ・クエヤル氏は、英語よりフランス語、フランス語よりスペイン語を得意としていましたが、それ以前に、交渉のタイミングのセンスに長けていました。私が知る限り、一番の交渉の達人でした。外交の場においては、これだけは誰にも負けない、という専門領域を持っていることが強みになるものです。このことは国連に限らず、どんな場においても同じではないでしょうか」

共通の目的があれば 国や文化の壁はない

明石さんが国連職員となったのは1957年のことだ。東京大学を卒業後、フルブライト奨学金でアメリカ・バージニア大学大学院へ留学し、国際関係学の専門大学院であるフレッチャースクールへ進むことが決まっていた。しかし1956年の夏、ミネソタ州で開催された国際学生セミナーに参加し、東アジアの国際情勢について講演したところ、国連



の政治安全保障局の目に留まり、スカウトされる。このときはまだ、「国際政治学や外交史、国際関係学といった分野の研究をしたい」「博士課程を終えて日本の大学で教えたい」と考えていたが、同年暮れ、日本の重光葵外務大臣が国連総会で日本の国連加盟に際して演説する場面を目の当たりにして、自身も「国連に奉職しよう」と採用面接を受けた。そして1957年2月、日本人初の国連職員となった。

「職員として働くに当たり、私は『博士号だけは取得したい』と、国連本部から近いニューヨークのコロンビア大学の大学院で研究する承諾を得ました。そして、大学院では

理論的な研究を続け、その研究を国連の場で実践・検証することになったのです」

机上での学びとは違う、国際政治の現場。「実際に権力政治も渦巻いていたが、そんな現実を見てもがっかりはしなかった」と明石さん。むしろ、1割程度は理想主義が存在していることに驚いたという。

職員になって間もないころ、1956年10月に起きたハンガリー動乱に関する事務総長報告書の作成チームに入った。メンバーはみな国籍の違う14～15名のスタッフだ。共通言語は英語。英語が母語の人もいれば、そうでない人もいる。それぞれが自分なりの英

語でコミュニケーションを図りながら、わずか数週間で報告書を書き上げた。

「期日までに仕上げなければならないとの共通意識があったからこそ、チームが一体となって取り組むことができました。寝食も忘れて毎晩遅くまで膝を突き合わせ、週末にも出勤し、協力し合って作り上げたのです。国や文化の壁を超えて、共通の目的に向かって進んでいきました」

この仕事を通じて明石さんは、国際社会ではお互いの人格を国民性といったステレオタイプに当てはめて考えず、一人の人間として相手を見ることが大切であることを、身をもって理解した。そして、これで自分はやっていけると自信を得ると同時に、日本人も相手と公平につき合えば、国際社会のなかで大きな役割を果たせると実感したという。

「国際社会では、国や文化を超えて、相手を受け入れ、理解しようとする気持ちが求められます。そのために言葉は不可欠ですが、それがすべてではありません。言葉の背景にある意味を推し量り、専門領域の知識を深め、理解し合う姿勢が求められるのです。また、知識に基づいた良識を身につける必要もあります。日々の社会情勢や国際情勢を理解し、その背後にある流れも理解する必要がある。幅広い視野を持ち、いろいろなことを意欲的に学ぼうとする姿勢が大切なのです」

発信力よりも受信力を鍛えよう

世界各地で数々の和平の現場を経験してきた明石さんは、温和な人柄で、物腰がとても柔らかだ。相手の目をじっと見つめ、相手の言葉に耳を傾けて話をする。いろいろな価値観を持つ人々と心を通い合わせるには、どんな心構えが必要なのか。何を大切にしてきたのか。そう問いかけると「発信力よりも受信力が大切」だという答えが返ってきた。

「相手が発する内容は千差万別です。自分が発信することは準備できても、相手の発信に対する準備はできません。だからこそ、どんな内容でも受け止められるようにしておかなければなりません。歴史観や世界観の違いを理解しておくことも大切。そして、相手を説得しなければならない場合、感情的になって、真正面からぶつかっては折り合いがつかづらいものです。そんなときには、できるだけ婉曲に、ニュアンスやユーモアなどうまく使い、冷静に論理的に議論を推し進めます。裏づけとなる客観的な事実や統計学的なデータは不可欠です。それを持っていなければ、誰も聞く耳を持ちません」

中学・高校時代に英語の基礎を固める

今、社会的な要請が高まっているグローバル人材について、明石さんはその要素を3つ挙げる。すなわち、コミュニケーション能力、チャレンジ精神、異文化への理解である。「英語やコミュニケーション力を重視しがちですが、最も重要なのは、チャレンジ精神。志をいかに持つかです。次に異文化理解。相手を受け入れ、自分を理解してもらう。そして最後にコミュニケーション能力なのです」コミュニケーション能力については、早い段階から英語の基礎を身につけておくことが必要だという。

「小学校で英語の基本を身につけ、中学校



グローバル人材への近道は人間として総合力を高めること。

では語彙や文法をしっかり学び、高校でさらに英語力に磨きをかけ、大学で専門領域を英語で学び、内容のある英文を書けるための力をつけてほしいですね」

明石さん自身が英語を学び始めたのは、中学生になってからのこと。終戦を迎えたときは旧制中学の3年生。生まれ故郷の秋田県にも進駐軍がやってきたが、当時の明石さんにとって英語は「敵国語」という意識が拭えなかった。しかし、通っていた中学でいい英語の先生にめぐり合い、お兄さんにすすめられた参考書で英語を学ぶうちに、親しみを感じるようになってきたという。旧制の官立山形高校へ進学すると、『岩波英和辞典』を執筆・編纂した先生から直接英語の指導を受けた。このように、中学・高校在学中に文法や語彙を徹底的に学び、明石さんの英語力の基盤が固まっていったのだ。

高校卒業後、東京大学へ進学した明石さんは、2年生のときに生まれて初めて本物の英語に触れる。アメリカから来ていた文化人類学の教授の授業である。授業はすべて英語で行われていたが、初めの頃は授業冒頭と終了の挨拶しか理解できなかったと言う。

「同級生で英文学者になった行方昭夫さんの著書『英文快読術』には、当時の私のことが書かれています。大学に入ったとき、授業を理解するのに苦労する学生が2人いた。1人は秋田の山の中から出てきた明石。もう1人は新潟の雪深いところから出てきた小和田。ところが2人とも中学・高校で英語の基礎だけはきちんとやってきたらしく、1年もたつと、先生の言うことをほとんど理解できるようになっていた……と。明石とは私のことであり、小和田とは雅子妃殿下下の御父上、国連大使や外務次官などを務めた小和田恒さんのことです。つまり、中学・高校までにしっかりとした基礎を身につけておけば、ヒアリングやスピーキングは後からでも力がつき、応用できるという実例です」

それからの明石さんは、お茶会などでアメリカ人の青年や教授の令嬢と交流を深め、政治や社会について英語で論じ合うまでになった。それでもまだ言いたいことを完璧には伝えられない。そのもどかしさを原動力に、英字新聞を使ってさらに徹底的に勉強した。「例えば、社説特有の英文パターンを暗記すれば、場面に応じて使えます。“It seems to me that…”のように、前置きするうちに、自分が言いたいことを整理して話せばいいのだということも学びました」。

そして、国際政治学を研究すべく、フルブライト奨学金を取得して米国へ。英語に対する多少の自信も芽生えている中での留学だったが、実際に渡米すると、南部独特の訛りがあるバージニア州では、英語を聞き取るのにも苦労した。各国から集まった学生たちが生活を共にする学生寮では、日本ならではの「以心伝心」は通用しない。「誰かに何かしてほしいことがあるなら、率直に言葉にしなければ相手には伝わらない」ということを経験した。同時に、当時、日本の大学生が常識としていた世界的に有名な文学者や哲学者についてなど、案外アメリカの学生は知らないということもわかった。「『英語力は逆立ちしても勝てないが、知識や教養は自分の方が上だぞ』と自信がついたものです」と明石さんは懐かしむ。

英語教育の見直しで内向き志向を打破

1997年末に国連を去ってからは、日本の若い世代の育成に尽力している。2001年から群馬県立女子大学外国語教育研究所の初代所長を務め、「英語能力の向上に関する提言」などを策定したほか、国際社会に対応する人材育成のための「明石塾」塾長として、現在も同県内の高校生を対象に、国際情勢や日本の現状、異文化理解、英語の研修などを実施している。

「昨年9月に日中韓の大学生によるユース・フォーラム*1が札幌大学で開催されましたが、日本の大学生も中国や韓国の学生と同格に論じ合い、実力が上がってきていると感じました。その反面、日本人の留学への関心が全般的に薄れているという報道もあり、残念に思います。もし英語が障壁となるのであれば、英語教育そのものを見直すことも考えなければなりません。ALTを有効活用し、日本人教員の英語力を高めることを目的に彼らとの交流を深めることも一つの方法。また、3～6カ月の短期間でも構わないので、イマージョン教育を取り入れ、徹底的に英語漬けの学習をする場があってもよいのではないですか」

日本人が世界での存在感を示すために

国内での日本人と外国人の交流の機会を増やすことも、異文化理解を促し、英語を使って交流しようとする意識を高めるのに役立つ。「言葉を使いこなすには、時にはミスをして恥をかきながら経験を積んで磨いていくしかない。私自身もそうした経験をたくさんしてきました。恥は若いうちにかけばいいのです。私は講演活動もしていますが、講演後の質疑応答は私の話をどのように受け止めてくれたのかを知るととても貴重な時間。しかしながら、留学生からは実に厳しい質問を浴びせられることもあるのに対し、日本人からはあまり質問されることがありません。もっと自信を持って、意欲的に発言してほしいですね。語学力とは関係なく、何かに疑問を持ったり、それ以外の考え方があるのではないかという意識を持ったりすることが大切なのです」。このままでは、世界における日本の発言力や存在感はどんどん薄れてしまうのではないかと明石さんは危惧する。

「英語力をつけることだけを目標として英語を学ぶのではなく、何か情熱的に知りたいたいことや語りたいことが自分の中にあるから、それを学び取るために英語を学ぶということでのよいのです。そうすれば英語力は副産物として身についていきますから。現在の日本の18歳人口120万人のうちの10%にあたる12万人でも、グローバル人材として育てほしいと思いますし、それは社会が育てていかなければならないでしょう。グローバル人材には、自分の知識や教養、世界観、人生に向き合う真剣さ、そうしたものをすべて含めた人間としての総合力を高めることが大切だということを、学習者も、そして先生も忘れないでいてほしいと思います」

*1 日中韓ユース・フォーラム：日中韓3カ国の国連協会のイニシアチブで2010年からスタート。未来を担う若者たちの相互理解促進、人材育成とネットワーク構築を通じて、北東アジア3カ国の長期的なパートナーシップの形成と、世界に開かれた世界のための東アジアの協力関係の構築を目指す。フォーラムでは、シンポジウム、模擬国連、文化・伝統交流の3つのプログラムが行われる。第1回（2010）は日本、第2回（2011）は中国、第3回（2012）は韓国で開催された。

明石 康（あかし やすし）
1931年、秋田県生まれ。東京大学卒、バージニア大学大学院修了後の1957年、国連入り。広報担当の国連事務次長やカンボジア担当の事務総長特別代表などを歴任。97年退官。現在は国際文化会館理事長、ジョイセフ会長、日本国際連合協会副会長、群馬県明石塾塾長、神戸大学特別教授などを務める。

グローバルリーダーインタビュー Part 2

自国から飛びだし、さまざまな壁を乗り越えながら
八面六臂の活躍を見せる二人のグローバルリーダーたち——
三菱商事の現地事務所でイラクを担当する金田木綿子さんと
中東の石油産業を牽引するハンス・ホイスキーさんが、
日本の学生たちに、力強いメッセージを送ってくれた。



お二人が働く中東屈指の都市・ドバイ

金田木綿子（かなだ ゆうこ）
米国・ノースイースタン大学卒業後、NPO 法人でアフガニスタン経済協力を担当。その後、外務省在アフガニスタン日本大使館、IBM オーストラリアを経て、2006 年に三菱商事ドバイ駐在事務所に入社。2013 年2月から現職。



国際社会で求められるのは 実際に行動を起こす力

金田木綿子さん 三菱商事中東・中央アジア統括事務所
イラク担当マネジャー

Q 幼い頃から現在に至るまで、海外経験が豊富な金田さんですが、なぜ世界に出てみようと思ったのですか？

子供の頃から日本のみで人生を終えるのは小さすぎ、もったいないと思っていましたので、青年期から意欲的に国外へ意識を向けていました。一方で、文法中心の英語授業は楽しくなく、日本にいた当初は日本語が好きでも英語が嫌いで落第点ばかりとっていたのを覚えています。

Q 英語に対する姿勢はどのように変化していききましたか？

英語が好きになったきっかけは、ある先生の“Close your textbook. Let's talk.”というひと言でした。その頃の私にとって、英語の授業で教科書を開かずに会話のみという提案は、とても衝撃でした。興味がわいてくると、もともと耳が良かったのか、すぐに英語の音を聞き取れるようになり、日本語が醸し出す音とは違うハーモニーの

英語にのめり込んでいきました。同時に外国への興味も一層増すことになりました。

大学からボストンに渡米して英語中心の環境に身をおいてからは、英語は生きるために必要不可欠なツールとなりました。こうなると英語を学ばざるを得なくなり、己の血となり肉となるよう吸収しました。

Q 日本とは異なる環境で、多種多様な人々と関わりながら活躍を続けていくうえでの原動力は何でしょうか。

自分の常識は得てして非常識になり得るという事実を受け入れること。相手の立ち位置を見極めること。また、障壁を「乗り越えるべき目標」として設定すれば、困難はいくらでもモチベーションにつながります。ドバイ生活も早8年、イラクの仕事に携わって2年となりますが、仕事のやり方は当然日本とは全く異なりますし、イスラム圏での女性マネジャーということもあって、不足感や困難と毎日向き合っています。

ただ、「この壁を絶対に乗り越えてやる！」という意気込みや、周りのバックグラウンドが異なる方々に刺激を受けると必然とやる気がわき出てくるのです。

Q 海外に長く暮らしていると、日本人として意識の変化はありますか？

多文化環境に身をおいて働いていると、自分が日本人であることを強く意識させられます。国外に出てからのほうが、日本のことをよく学び、調べるようになりました。私の所属する会社では、私たちは日本代表のようなものですから、母国の歴史、背景、現状をしっかり認識し、第三者に伝達する使命があります。また、日本人であることに常に誇りを感じるようになりました。

私たちは、国際社会では他国の文化や歴史を勉強しないと国際人ではないと考えがちですが、海外の人が知りたいのは私たちの母国である日本という国についてなのです。代表者として、自分が日本の良さ・課題を世界に発信しなければいけないと、自分自身に日々プレッシャーをかけています。

Q 海外から見た日本という観点で、日本の読者にメッセージを。

日本は本当に素晴らしい国です。日本人として生まれた私たちは、自分たちがいかに恵まれた環境でスタートラインに立っているかを自覚し、感謝しなければなりません。同時に、この国の利便性、安全性は、国民にとってマイナスに働くこともある、ということも知っておいて欲しいですね。欲しい物はいつでもどこでも手に入る、On time で事が運ぶ、丁寧な接客など、誰かが助けてくれると思っていても国際社会では通用しません。受動態ではなく能動態で。語学（英語）は武器です。武器は使わなくては意味がない。今、国際社会で求められるのは、入手した情報を頭だけで理解するのではなく、実際の行動に移す力・勇気です。日本という恵まれた環境を土台に、その責任、高潔な姿勢、大和精神を行動で、真心で証せば、日本人の国際的なプレゼンスはより確固たるものになると信じています。

カルチャーショックは 海外で仕事をする醍醐味

ハンス・ホイスキーさん Petronor
Managing Director

Q ノルウェーでは自国での生活に対する満足度が高いため、国内にとどまる人が多いと聞いています。ホイスキーさん自身はいかがですか？

私は船乗りの一家に生まれたせいか、好奇心が強く、リスクを冒すことを厭いません。軍隊に入るために初めて国外に出ましたが、そのときにどれだけこの世界が大きい場所であるか、ということに気づかされました。さまざまな国籍の人々が、互いに関係を築きながらビジネスを成功させていく過程を見るのは非常に興味深いですね。もちろんそのような場には次第に慣れていきますが、慣れ過ぎて退屈だと感じることはありません。世界には興味深い人々や多くの挑戦が広がっているのだと気がついてからは、ノルウェーだけの生活に戻ることは、考えられなくなりました。

Q 国際的な舞台で仕事をするにあたって、カルチャーショックを経験したことはありますか？

もちろん、さまざまな文化的背景のなかで仕事を続けていくうえで、難しさを感じることはたくさんあります。非常に厳しい宗教的な慣習が存在したり、独裁政治が行われているために言論の自由がないことに強い衝撃を受けることもあります。しかし、このようなカルチャーショックこそが、国際的に仕事をするうえでの醍醐味だととらえています。

Q 日本人と仕事をするうえで、感じたことがあれば教えてください。

日本人と仕事をした経験は多々ありますが、彼らは自信をつけるまでに多くの時間を要するようですね。礼儀正しくて、注意深く、細部にこだわる傾向があります。仕事を遂行する能力には信頼がおけますし、世界でもトップクラスだと思います。



ハンス・ホイスキー
(Hans Hoiskar)
ノルウェー工科大学を卒業後、石油開発会社などに勤め、中東各国に駐在。イラク石油省と築いた人脈を生かし、2001年に Petronor を設立。各国の石油会社のサポートをするほかノルウェーからイラクへの技術移転の推進にも携わる。

コンセンサスを重視するところや、物事を深刻にとらえ過ぎるといった、一見欠点のように思われがちなところも、ときには良い結果につながります。

例えば、日本には素晴らしい木工芸術がありますが、これは仕事に対して誇りを持って取り組み、完璧主義にこだわっている証拠だと思います。たまに、ワーカホリックなどと揶揄されることもありますが、日本人の仕事に対する姿勢は、世界的にも高く評価されているのです。

Q 今後グローバル人材として活躍したい、と考えている学生のために、アドバイスをお願いします。
やはり、英語を使えることが必須です。

可能であれば、第二外国語、第三外国語まで身につけられると、活躍の場がぐっと広がります。海外で勤務する機会を積極的に求めて、雇用主に「世界で働きたい」という気概を見せることも、いいアピールになるでしょう。

海外に出たら、初めはさまざまな文化に触れ、それらを吸収するように努めてみてください。それから、ある程度違う文化や慣習のなかで働くことに慣れてきたら、今度はおかしいところがないか、自問自答するようにしてみてもどうでしょう。もちろん違った文化や慣習に対する寛容さは必要ですが、何でもただ受け入れて、鵜呑みにすればいいというわけではないのです。

国際交流に取り組む大学

埼玉大学

グローバル化を見据えた教養学部のためめ挑戦

リベラルアーツ教育を軸にグローバル人材育成を進める
埼玉大学・教養学部の取り組みが、2012 年に、
文部科学省の「グローバル 30 プラス」に採択された。
大学全体を牽引する教養学部の国際化への挑戦は、
学生たちに、どんな未来図を与えられるだろうか。



7 人に 1 人が留学を目指す 教養学部のグローバル教育

キャンパスの国際化や国際教育を特色として打ち出しているのは、個性を競う私立大学ばかりではない。国公立大学でもこれからの時代に即した教育の一環として、グローバル人材の育成に重点を置き始めている。

国立埼玉大学（埼玉県さいたま市）のグローバル人材育成を牽引するのは、リベラルアーツ教育を提供する教養学部。2012 年、教養学部を中心とした取り組みが文部科学省の「グローバル人材育成事業（特色型）」に採択されたことで、埼玉大学はグローバル人材育成における日本の拠点大学のひとつとなった。

「グローバル人材育成事業」は、通称「グローバル 30 プラス」として知られる。平成 25 年度末をもって終了する「グローバル 30」が、海外からの留学生を受け入れるための日本の大学の体制整備を目的としたのに対し、今回の「グローバル 30 プラス」が目指すのは、日本の若者の「内向き志向」からの脱却と、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍する人材の育成だ。具体的には、①「語学力・コミュニケーション能力」、②「主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感」、③「異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー」という、3つの力を身につけた若い力を育てるというもの。

ちなみに「グローバル 30 プラス」には、大学全体のグローバル化に取り組む「タイプ A（全学推進型）」と、特定の学部や大学院による取り組みの「タイプ B（特色型）」があり、埼玉大学教養学部のケースは後者にあたる。

同学部が展開する「グローバル人材育成プ

ログラム」について、伊藤博明学部長以下、プログラムの開発推進に努める教師陣に話を聞いた。それによると、教養学部におけるアーツ&サイエンスという学問領域では、「人材養成の目的を現代に即してアップデートすると、必然的にグローバル人材育成の要素が入ってくる」という。

その言葉の通り、教養学部の取り組みは、国際化が進む社会の求めに大学として応じようとする流れのなかで、ごく自然な形で推進されてきた。従来から力を入れていた英語教育を一層強化し、多文化理解や海外体験に関するモジュールを導入。基盤教育をアップデートすると同時に、よりアクティブな教育への質的転換を図った。その結果、グローバル人材育成を基軸に据えた教育の特色を、以下のようにまとめている。

教養学部が拓く
グローバル人材育成

- 国際的に通用する大学教育課程の整備
- 正しい日本理解にもとづいた多文化理解教育の推進
- 英語スキル教育を強化し、高水準の英語運用能力が身につく教育の推進
- 意欲のある学生は、4 年間の学部就業年限内で、1 年程度の海外の大学への留学と、海外インターンシップが可能
- 海外留学や海外インターンシップを支援するための個別指導の充実
- IELTS 等の英語検定が原則無料で受験可能
- 海外留学をする学生に、文部科学省の奨学金が優先配分
- 「帰国子女入試」に加え、平成 26 年度からは高校在学時に 1 年間以上の海外留学体験をした受験生を対象に、「海外留学経験者特別入試」を実施

このうち学生の海外体験に関し、留学（アカデミック）とインターンシップ（実務）という、方向性を変えた 2 種類の機会を設け注力している点は、若者の「内向き志向」克服という「グローバル 30 プラス」の目的のひとつにも直結し注目される。

留学を希望する教養学部の学生は、年間 30 人前後で推移してきたが、今年は 1、2 年生を中心に一気に 50 人を数えるに至った。この割合は、同学部 1、2 年生の実に 7 人に 1 人が留学を目指していることを意味し、「国立大学で、外国語学部でもないのに、これほど留学が盛んになるとは」と、留学を奨励してきた教師陣も目を見張る。

留学とインターンシップで 多様な国際体験を得る

「留学希望者が急増した原因としては、2009 年 10 月から、埼玉大学全体の特別教育カリキュラム、『グローバル・ユース・プログラム』がスタートしたことが大きい」

そう指摘するのは、同学部の高木英至教授。開発問題に重点を置いた「グローバル・ユー

ス・プログラム」では、海外でのインターンシップや、1 年程度のアメリカ留学もカリキュラムに組み込まれている。受講にあたってはある程度の英語力が求められ、成績と面接により受講生が選抜される。

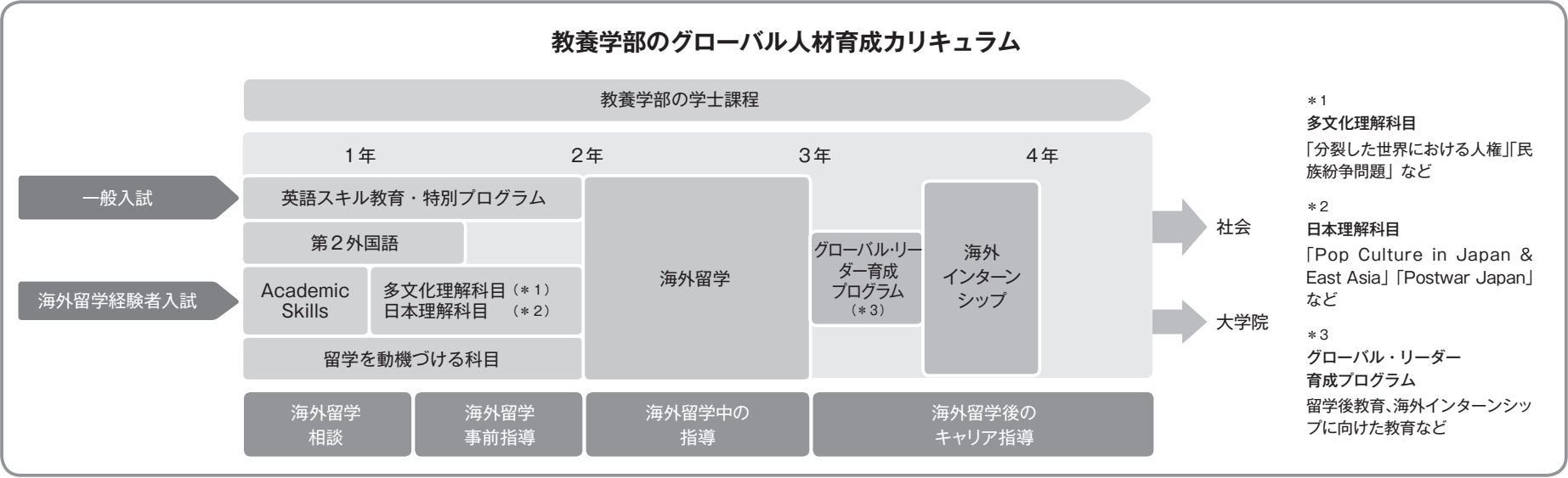
この「グローバル・ユース・プログラム」は教養学部固有のプログラムではなく、全学に開放されているものだが、実際には教養学部からの応募が最も多い。教養学部は入学時の学生の英語力が全学的に高いうえ、IELTS も学内で無料受験できるため受験者が増えている。もちろん学部独自のグローバル人材育成プログラムを通じ、留学を前提とした英語教育を 1 年次から活発に行っていることは言うまでもない。高木教授は言う。

「留学をする先輩や仲間が、教養学部では周囲に何人もいて、昨日まで机を並べて勉強していた学生が留学し、1 年後には戻ってきて、自分の体験をみんなに話すわけです。こうした環境が、留学を身近なものにし、敷居を低くしているのだと思います」

全学的な「グローバル・ユース・プログラム」には、海外インターンシップも含まれて



「Insights into Global Development」の授業風景。



いる。4年間の学士課程のなかで、インターンシップまで経験できるケースは稀だ。貴重なチャンスを生かし、「学生時代にできるだけ幅広く、生きた海外体験を得てほしい」と市橋秀夫教授。教養学部としても、「グローバル人材育成プログラム」の一環で、留学担当とは別に、海外インターンシップを担当する教員も配置して、サポートやバックアップに当たっているという。

インターンシップの実施については、米国ワシントン DC のワシントンセンター (TWC) や、カナダのプリティッシュ・コロンビア大学 (UBC) との提携で行われている。これらの提携機関がアメリカやカナダでのアカデミック・プログラムとトレーニングを提供し、インターン先の選定や手配までを行う仕組みだ。

インターン先はアメリカやカナダを中心に、大学、研究機関、シンクタンク、行政機関、国際協力や開発系の NGO、民間企業と多岐にわたり、本人の希望、それまでに学んできた分野、英語力などを考慮して派遣先が決定される。教養学部では現在、毎年 10 名程度の学生が、何らかの形で海外インターンシップを経験しているとのことだ。

インターンシップの意義と学生の反応について、担当のアクセル・カーペンシュタイン准教授は次のように語っている。

「海外で仕事をするという経験には、留学とは違った発見や学びがあります。高い英語

力が要求されますし、実践的な知識を学びつつ、与えられた仕事は責任をもって遂行しなくてはなりません。勉強することが多いため、ときには睡眠時間を削って頑張らなくてはならないなど、チャレンジングでもあるようです。それでもインターンシップは学生たちに好評で、『人生観が変わりました』と言ってくる学生もいます」

日本社会で活躍するグローバル人材を育てたい

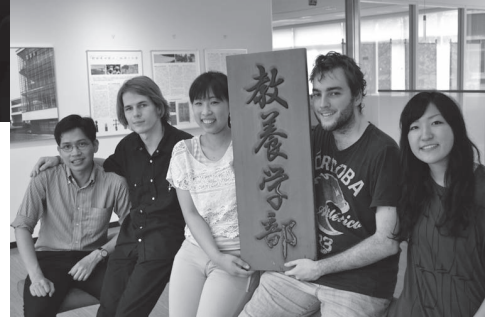
埼玉大学教養学部の「グローバル人材育成プログラム」は、学部独自のプログラムと、大学自体が持つ既存の資源やプログラムを密に結ぶことで、効率的に展開してきた。学生が誰でも気軽に利用できる「英語なんでも相談室」も、大学の既存施設だ。ネイティブ・スピーカーの教員が交代で詰め、英語に関する相談に応じたり、ワークショップを開いたりするいっぽう、学生同士のピア・エデュケーションの場としても活用されている。「グローバル 30 プラス」の補助金を得て教材や教員の拡充が進んだことで、教養学部の学生はもちろん、全学的にも英語力の底上げに貢献しているという。

文科省の「グローバル 30 プラス」採択から 1 年、教養学部の「グローバル人材育成プログラム」は、学生の英語力、国際社会に対する関心、海外体験、主体性といったさまざまな面で、徐々に成果を挙げ始めた。新たに



左：海外協定校と綿密な打ち合わせを重ねプログラムの充実を図る。

下：留学生も数多く学び、キャンパスの国際化も進んでいる。



入学してくる学生は、最初の 1 年間でしっかり英語を身につければ、2 年生で留学することも可能だ。留学中に取得した単位は基本的に移行できるので、休学の必要もない。さらにその後、海外でのインターンシップに参加して、自分の関心分野について、社会に出る前に英語で実務を経験することもできる。あらゆるチャンスを生かして成長してほしいと、先生たちの意気込みも熱い。

「一部のエリートや、海外で活躍する人だけが、グローバル人材ではありません。日本の大学を卒業する学生の大多数は国内で就職しますが、これからは日本にいても、学生時代に身につけた国際感覚や、留学で学んだことが生かせる時代です。日本にいながらグローバルに活躍できる人材こそ、私たちは当たり前のこととして、育てていきたいと考えています」(市橋教授)

「大学の新生の大半は、留学経験などない普通の高校生です。将来どういう仕事をしたいのか、明確な進路もまだ定まっていない

かもしれません。その新生が 4 年後に、胸を張って国際化が進む社会に巣立って行けること。それが私たちの目指すグローバル教育です」(伊藤学部長)

学生のニーズや意見を注意深く拾いつつ、さらなる成果に向けた地道な試行錯誤が続く。

埼玉大学

1949 年設立。5 学部 4 大学院研究科を擁する文系と理系のバランスがとれた総合大学。基本方針のひとつに「国際社会への貢献」を掲げ、教養学部が先導するグローバル人材育成の取り組みを全学に波及させて、国際基準の教育へと質的転換を目指す。400 名を超える外国人留学生が学び、キャンパスの国際化も進行中だ。

世界基準のビジネス英語能力テスト

BULATS

The Business Language Testing Service

日本でも約400の企業・団体が採用！

●三井物産 ●住友商事 ●三菱重工業 ●商船三井 ●メルリランチ
●日立製作所 ●ユニリーバ・ジャパン ●エーザイ ●日本電気 ●富士通 ●伊藤忠テクノソリューションズ ●ヒルトンホテル ●旭硝子
●横河電機 ●リクルートホールディングス ●毎日コミュニケーションズ ●日産ディーゼル工業 ●長瀬産業 ●オリジン電気 ●サントリー
●PFU ●富士通オートメーション ●富士通ラーニングメディア ●ヤンマー ●シェーンコーポレーションジャパン ●JAC Japan
●カネカ ●プリティッシュ・カウンシル ●マースク ●佐川グローバルロジスティクス ●日本テキサス・インスツルメンツ ●マーレエンジンコンポーネンツジャパン ●ニフコ ●ユーロクリア・バンク ●ネスレ日本
●全日空商事 ●大日本住友製薬 ●バイオ・ラッドラボラトリーズ ●ジャパンフード ●アマゾンジャパン ●アイ・アム ●早稲田大学理工学部 ●広島大学 ●熊本大学 ●京都大学 ●神戸大学ESS 他多数

世界と繋がるために

Are you sure your message is getting through?

BULATS
Fast, reliable,
and global

Standard Test

リスニング/リーディング/語彙問題

¥ 2,900 (税込み)

Computer Test

リスニング/リーディング/語彙問題

¥ 2,900 (税込み)

Speaking Test

ネイティブ試験官との対面式

¥ 6,900 (税込み)

Writing Test

記述式

¥ 3,900 (税込み)

詳細は

<http://www.eiken.or.jp/bulats/>

お問い合わせは

Tel : 03-3266-6366 Email : stepbulats@eiken.or.jp



UNIVERSITY of CAMBRIDGE
ESOL Examinations

BULATS(ブラッツ)は、公益財団法人日本英語検定協会と英国ケンブリッジ大学の語学試験機関であるケンブリッジ英語検定機構が共同開発したテストサービスです。



Vol.22 by Tomoko Otake

英字新聞記者の視点 日本のニュースを英語で発信しよう

Topic

01

日本に空き家が増えている！

As Japan's population ages and shrinks, run-down, uninhabited properties are becoming more common.

日本の人口が高齢化し減少するにつれ、荒れ果てた住む者のない土地家屋が増えつつある。

4分の1の家が 空き家になる？

少子高齢化により日本の社会がどう変わるかという問題を、紙面でしばしば取り上げているのですが、最近、日本で空き家問題が深刻化しつつあるということを知り、埼玉県所沢市の空き家とそれを管理する NPO「空家・空地管理センター」を訪ねてみました。

2008 年の統計によると、日本の住宅の 13.1 パーセントに当たる 757 万件目の家が空き家の状態にあり、総務省によると、2028 年には 23.7 パーセントにまで上がるだろうと予測されています。

空家・空地管理センターが所有者から管理を依頼されている所沢のとある物件は、窓がはずれて吹きさらしの状態にあり、雨や風で傷んで床は今にも抜けてしまいそうでした。所有者は東京に住んでいて、もう 3 年も無人の状態にあるのです。

こういった家があると、崩壊や出火の危険や、排水がもれる恐れがあるため、近隣住民から苦情が出るようになります。この NPO は、家を管理するとともに、そういった苦情に対応する業務も行っています。

「かつて東京の郊外に多くの家が建てられ

ましたが、成長した子どもたちは都心に移り住み、両親が亡くなると、残った家が荒れ果てるだけという例が増えています」と NPO の担当者。このような NPO はまだ全国に数がなく、空家・空地管理センターはごく少ない例の一つです。

家を残しておくのは 税金を節約するため

独立行政法人建築研究所の専門家によると、日本人は一般に新しい家を好み、古い家に住み続けたがらないという傾向があるようです。また、戦後すぐに建てられた家の多くは現在の建築基準法に合わず、家の前の道路の広さの規制などから、同じ土地に新しい家を建てることのできない例も多く見られます。さらに、家が建っている土地は、家を建てていない場合に比べ固定資産税が 6 分の 1 になるという制度があり（※ 200 平方メートルまでの小規模住宅用地）、税金を節約するために、家が老朽化してもあえてそのまま残しておく人もいますそうです。

最近では、一部の自治体がこの問題に取り組んでいます。例えば東京都足立区では、崩壊の危険のある家屋の所有者に解体を指導・勧告し、解体には 100 万円までの助成金を

日本で起こっていることを外国人に伝えるときは、物事の背景を理解し、わかりやすく説明するスキルが求められる。英字新聞 The Japan Times の記者に、日本の「今」を世界に伝えるためのコツを教えてください。

今月の記者 小竹朝子さん

1995 年ジャパンタイムズ入社。週刊 ST（現 The Japan Times ST）を経て The Japan Times 報道部に。現在は記者兼社会経済デスク。



東京都足立区では老朽化した家屋の解体費用を援助する／Tomoko Otake

出すとしています。ただし、こういった例もまだ非常に限られたもののようです。

古い家を活用してカフェやシェアハウスをつくる、解体した土地に高齢者向けのデイケアセンターをつくるという解決法も考えられ

ますが、「できれば所有者が生前に処分を」と、空家・空地管理センターの担当者は勧めていました。

*参考記事
<http://www.japantimes.co.jp/news/2014/01/07/national/abandoned-homes-a-growing-menace/>

Topic

02

20歳未満のエンジニアを支援

A Tokyo-based IT security firm has established a unique program that offers up to ¥1 million in financial assistance to computer whizzes under the age of 20.

東京都拠点とする情報セキュリティ企業が、20 歳未満の有望なコンピューター技術者に、100 万円までの経済的支援を行うという、独自のプログラムを始めた。

優秀な若手技術者に 100万円までを支援

情報セキュリティ対策を専門とする企業、株式会社ラックは、20 歳未満の若手技術者を対象に、総額 100 万円までの支援を行うと発表しました。同社はこれまでも、情報セキュリティについて学びたい学生のための合宿「セキュリティ・キャンプ」、ハッキングなどによって情報技術の腕を競い合う競技会

CTF（Capture the Flag）の参加者への支援を行ってきました。今回もそういった若手技術者を支援する取り組みの一つで、100 万円までの支援は、例えばハードウェアやソフトウェアの支給、セキュリティ技術競技参加のための渡航費用といったかたちで提供されます。

情報セキュリティの世界では、政府や企業のコンピューターに侵入し、情報を盗みとったり違法に操作しようとしたりするサイバー

攻撃が後を絶たず、しかもその手口が次第に複雑化し、巧妙になっています。「サイバー攻撃に備えるため、弊社では企業にさまざまな対抗手段を提供したいと考えているのですが、あいに多くの企業にはまだ、それらを理解して実践できるだけの人材がそろっていません」と、ラック社の担当者は語ります。既存の専門家だけではならず、優秀な技術者を早期に育成する必要に迫られているようです。

セキュリティ競技会で 活躍する中高生たち

昨年、同社は兵庫県灘高校のパソコン研究部に所属する生徒を中心とするチームに、高度なシステム解析ソフトを購入するための資金 70 万円を提供しました。このチームは日本国内の CTF に参加して上位入賞を果たし、アメリカでの競技会にも参加する意欲を持っていたとのことでした。

CTF は若者向けの競技会というわけではないのですが、参加者の年齢は次第に下がって

きていて、高校生、または中学生が参加することもあるそうです。日本は情報セキュリティの分野では遅れているという印象がありましたが、実際は多くの日本の若者が、CTF のような大会で活躍しています。

この 20 歳未満の若者を対象とした支援プログラムは、支援を活用するための具体的な活動計画が審査の対象となっています。応募期間は今年 2 月 1 日から 3 月 31 日まで。6 月上旬に選考発表が行われます。興味のある人は、ぜひラック社のウェブサイトをチェックしてみてください。

「U-20 IT スーパーエンジニア・サポートプログラム "す・ご・う・で"」
<http://www.lac.co.jp/corporate/citizenship/student-support.html>

*参考記事
<http://www.japantimes.co.jp/news/2014/01/09/business/security-firm-offers-1-million-grant-to-nurture-young-computer-buffs/>



This month's selections from The Japan Times

～ 英文記事を読んでみよう～

Cool Japan Fund chief says crafty marketing key to regional revivals

KAZUAKI NAGATA
STAFF WRITER

Japan still has a wealth of products that can be sold to the world, and many are still waiting to be discovered, according to Nobuyuki Ota, CEO of the newly founded Cool Japan Fund Inc.

The fund, set up in November under a public-private Cool Japan initiative to promote home-grown products overseas, will closely network with regional governments, municipalities and banks to pursue projects that show promise, Ota said in a recent interview.

If the fund succeeds, some of the nation's battered regional economies may get an unexpected lift.

"I want to say, 'Let's energize local economies together.' If we can have one or two successful cases in your prefecture, others will follow suit," said Ota, a former executive at department store chain Matsuya Co.

"This may sound extreme, but if they don't push themselves, local economies will not find ways to get energized

again," he said.

The Cool Japan strategy is one of the government's key industrial and economic policies. The government provided ¥30 billion and 15 private firms chipped in a combined ¥7.5 billion for the fund. They include ANA Holdings Inc., Dentsu Inc., Namco Bandai Holdings Inc., Dai Nippon Printing Co. and Mizuho Bank.

The fund's main role is to source marketable products and help promote them overseas so Cool Japan can create opportunities for Japan's firms while promoting its goods and culture on a larger, global scale.

The Cool Japan Fund also plans to build Japanese shopping centers in major cities and get foreign TV stations to broadcast more Japan-related content.

As an example of a successful model, Ota mentioned Dassai, a sake brewed in Yamaguchi Prefecture. By actively marketing the tippie abroad, Asahishuzo Co. has turned Dassai into one of the most



Marketing us to the world: Cool Japan Fund Inc. CEO Nobuyuki Ota stands beside the fund's logo at his office in Tokyo's Roppongi district.

KAZUAKI NAGATA

popular brands sold today, in Japan or abroad.

"We hope to strategically copy such cases," Ota said.

When promoting products overseas, it is important they be presented in a package, he said.

For instance, when trying to sell rice, at the same time you can promote Japan's rice-eating culture by cooking it in the traditional way. This gives you a way to sell not only rice, but the earthen pots it is cooked in and Japanese culture.

Ota mentioned a number of short-term goals for the fund, such as trying to explain what Cool Japan means.

"People have different images of Cool Japan, so we have to provide our image of Cool Japan in a way that people can easily understand," Ota said.

Many Japanese will probably think of manga or anime — elements of so-called

otaku (geek) culture. But Cool Japan includes a whole range of things, like fashion, food and even culture or customs, said Ota, who was also a former president of fashion design company Issey Miyake Inc. and spent most of his career in fashion-related jobs.

Ota said many industries associated with Cool Japan have been given the cold shoulder by the government compared with automobiles and electronics.

The government admits that even though manga, anime, fashion and food might be popular overseas, they are not having much success making money, which is why the Cool Japan Fund is now trying to take a more strategic approach.

"The state has realized that these industries will play important roles in creating future growth opportunities for Japan," Ota said.

Honda's moment arrives after long wait to join AC Milan

ANDREW MCKIRDY
STAFF WRITER

Keisuke Honda has waited a long time to get his shot with one of Europe's biggest clubs, but his patience should stand him in good stead as he begins life with Italian giants AC Milan this week.

Honda was set to be unveiled by the seven-time European champions on Wednesday after signing a contract with the club until June 2017, with the Rossoneri handing him the No. 10 shirt made famous by the likes of Ruud Gullit, Dejan Savicevic and Rui Costa despite having never played in any of Europe's elite leagues.

At the age of 27, however, Honda has certainly served his apprenticeship. The attacking midfielder thrived in two years with modest Dutch club VVV-Venlo after leaving Nagoya Grampus in early 2008, and improved further after a move to CSKA Moscow in January 2010 brought a steady diet of Champions League appearances.

But a four-year contract with the wealthy Russians proved to be something of a set of golden handcuffs after Honda made a wider name for himself at

the 2010 World Cup just months into the deal, and the player's desire to move west repeatedly fell on deaf ears as CSKA refused to let the player leave on anything but their own terms.

Now that Honda has signed with Milan, none of that matters. Instead he can draw confidence from the fact that he is joining one of Europe's blue-chip clubs as he enters the peak years of his career, with enough experience, know-how and physical ability to make a lasting impression on the San Siro crowd.

"First of all, he is technically skilled," Milan manager Massimiliano Allegri told reporters on Sunday. "His game will broaden our offensive repertoire. Even with three men up front, he will be the trigger for our attack.

"We have been looking for a player who can fill that position. I've seen what he's done for CSKA Moscow at the European level."

Unfortunately for Honda, Milan is experiencing a turbulent 2013-14 season, with Allegri's side currently 11th in the Serie A table. Progress to the last 16 of the Champions League will come as scant consolation for Honda given that he is in-

eligible for the rest of the campaign having already appeared for CSKA, and Milan's domestic struggles look certain to preclude involvement in Europe next season, too.

But Honda did not make his move with simply the short-term in mind, and the Osaka native has everything it takes to make his time in Milan the defining period of his career.

The Rossoneri have enough quality in their squad — Mario Balotelli, Kaka, Stephan El Shaarawy — to render this season's struggles no more than a blip, and Honda is capable of making a significant contribution.

"I have a lot to give and to offer the team," Honda told Milan TV after landing in Italy last weekend. "I've been waiting for today for a long time and it's a dream come true. Milan are a legendary club and I supported them as a child."

The world has been waiting to find out if Honda is the real deal ever since he made his name at the World Cup in South Africa, and the intervening four years out of the spotlight in Russia means he has something to



Keisuke Honda of AC Milan celebrates scoring the third goal during the TIM Cup match between AC Milan and AC Spezia at San Siro Stadium on January 15, 2014 in Milan, Italy.

KYODO

prove after belatedly arriving at soccer's top table.

Now he is ready to show he belongs there.

グローバル企業訪問 | Vol.22 | ダイキン工業株式会社

DAIKIN

世界戦略と環境技術力で
世界一の空調メーカーへグローバル化へ舵を切り
世界一位の売上高達成

しずく形のキャラクター「びちょんくん」が登場するエアコンシリーズ「うるるとさらら」のCMでおなじみのダイキン工業。創立から90年、家庭用はもちろん、空港や駅、オフィスビルなどに設置される業務用製品を中心に、空調機器全般の開発・製造を手がけてきた。1990年代半ばから海外事業を積極的に伸ばした結果、2010年には空調機器売上高で世界一位の座を獲得。フッ素化学分野でも世界二位の規模を誇るグローバル企

業である。

「ダイキン工業が他に先駆けて海外事業拡張へと舵を切ったのは、94年から経営トップとなった現取締役会長兼CEOである井上礼之の決断です。その背景には、まず『世界一になりたい』という熱い思いと、国内に頼った成長は頭打ちになるとの見通しがありました」と話すのは、東京支社人事本部・採用グループ担当部長の東風晴雄さん。

事業拡張の範囲は全世界に及び、中国、インド、ブラジルなど急成長まっただ中の新興国はもちろん、冷房を必要としていなかった欧州各国、さらには空調発祥の地であるアメ

リカへも進出、地域ごとに生産・開発拠点を設け、販売網を確立する以外に、外国企業の買収や提携といった手段をも駆使した。

20年に及ぶ海外戦略の成果として、今では世界22カ国に74の生産拠点を構築、145カ国に販売網を展開し、売上高に占める海外事業比率は70%を超える。地域別売上も、北米、欧州、中国、アジア／オセアニアそれぞれで15～20数%とバランスの取れた構成となっており、現在、グループ従業員数5万人のうち、75%以上が外国人とのことだ。

「最寄り化」が象徴する
ダイキン工業の海外戦略

「世界に目を向ければ、空調の普及率はせいぜい10%。市場は年率5%の伸びを続けており、まだまだ成長期にあります」と東風さん。

ダイキン工業のグローバル化の特徴は、現地のニーズを的確に把握し、それに見合った製品を開発・投入するという「最寄り化」に象徴される。空調とひと口に言っても、世界中では暑さ寒さ湿度といった気候の違いはもちろん、生活様式や趣味志向、建築様式、電力事情などが大きく異なる。例えば住宅用エアコンをインテリアとしてとらえる中国では、赤や金銀の据置タイプが好評だったり、環境問題に敏感で比較的寒冷な欧州市場には、空気中の熱を使う「ヒートポンプ技術」

による暖房・給湯器がマッチし、セントラルヒーティングの伝統を持つ北米の建築物ではダクト方式のエアコンが一般的……といった具合に。それに応える柔軟で斬新な製品開発こそが、ダイキン工業の海外市場を伸張させてきた。

当然のことながら、空調機器需要の成長をにらんでの、アメリカ、中国、韓国など世界の空調メーカーとの競争も激化している。

そうしたなかで、グローバル事業拡大のさらなる加速化を狙って進められているのが、現地国籍のスタッフをトップに据えて経営を任せる、すなわち「経営の現地化」だ。

しかしそれと同時に、ダイキン工業ならではの理念とビジネス手法を日本から浸透させることにも力が注がれている。ちなみに、ダイキン工業の標榜する理念とは、「環境貢献と事業拡大の両立」と、それを支える「人材力の強化」。「一人ひとりの成長の総和が企業発展の基盤」という考えに基づき、従業員全員が持てる力を最大限に発揮して成長できる場を用意し、高い環境技術力を強みに、社会と企業双方の発展を目指すということだ。

そして、そのための鍵となるのが、「ブリッジパーソン」なのである。

グローバル企業を支える
「ブリッジパーソン」

「ブリッジパーソン」とは文字通り「架け橋になる人」のことだが、ダイキン工業ではさらに、「地に足の着いた専門性を身につけて、現地の事業にトランスファーできる能力を持つ人材」と定義している。またそのためには、異文化を俯瞰的に理解し、全体最適の視点で戦略に展開できる柔軟性や、豊富な知識と専門性をベースに自らの意見を堂々と発言できる力を持っていることも求められる。

こうしたブリッジパーソンになり得る人材こそが、ダイキン工業が採用したいと考えている人物像にほかならない。

「当社では、伝統的に人物面を重視して採用しています」と、東風さんは前置きし、「具体的には、たゆめぬ向上心を持ち続け、自ら成長しようと努力し続けることのできる人、新たな領域へ挑戦し、変革していける人。それに、自分の意見をはっきり主張できる、ちょっと『出過ぎた杭』のような人にも来てほしいと考えています」と話す。

グローバル企業ゆえに、海外と仕事をする部署が多いが、前述した事業特性もあり、海外赴任比率が6%以上と特に高い。語学に自信があればそうしたチャンスをつかみやすいのは事実です、と東風さん。しかし、採用の段階では具体的な点数などの基準はない。それよりも、グローバルな視野で物事をとらえ課題や戦略に展開できるかどうか、チームの一員として責任を持って実行に邁進できるかといった素養を重視しているとのことだ。



中国市場で展開しているダイキン工業のルームエアコン。デザインも色も、日本とはかなり嗜好が異なる。



「大学時代には、どんなテーマでもいいので、自分の意志で目標を設定し、何かをやり抜いたという経験を積んでほしい。それは大きな自信となり、入社後も必ず生きるはずです」。

とりわけ留学経験のある人は大歓迎という同社では、大学のグローバル人材育成強化に

応える形で、留学によって広がる将来の可能性を知ってもらおうとカリキュラムを提供したり講師を派遣したりするなど、産学連携にも積極的に関わっている。また、留学によって通常の就活期間を逃してしまう学生に対して、採用期間を考慮するなどの取り組みを行っている。

若手社員を抜擢し 一年間の海外実践研修

さらに、ブリッジパーソンとなるグローバル人材の拡充に重点を置く同社人事本部は、若手の育成にも力を入れている。

「99年にスタートした『海外拠点実践研修』制度は、平均20歳代の若手を選抜し、海外に1年間送り出すものです。研修とはいえ、現地国籍のマネージャーのもとで働き、なんらかのミッション——例えばインドの家庭用エアコンはどうあるべきか——といった課題に取り組み、成果を持ち帰ってもらいます」

すでに12期、欧米や中国はもちろん、インド、ブラジル、トルコ、中東、東南アジアに毎年30～40名の研修社員を送り出している。この研修を修了した社員は、ほぼ

100%海外に赴任、もしくは海外との交渉や出張の多い業務についているとのことだ。

また、「一人ひとりの成長の総和が企業発展の基盤」とする観点から、同社は「女性活躍推進」にも力を注ぎ、意欲的な女性社員を積極的に応援する態勢を整えている。まず、2001年から総合職／一般職の区分を撤廃。仕事と育児の両立についても、育児休暇期間を一律に定めるのではなく短期から長期まで選択できるよう環境を整備、育児フレックス勤務も小学校卒業まで適用可能とした。さらには育児中の社員のサポートとして、残業や子どもの病気の際に利用するホームヘルパー費用や応援を頼む親の交通費を負担するなど、現実在即したきめ細かい支援プランが用意されている。こうした多様な働き方が選べる職場になったことで、女性社員の平均勤続年数は20年間で約2.5倍の10.4年へと長期化。ダイバーシティ（多様性）を尊重した企業としての成果を上げている。

＊

2012年11月、ダイキン工業では世界で初めて、地球温暖化への影響が従来の1/3である新冷媒「R32」を採用したルームエアコン「うるさら7」を日本市場に投入した。

オゾン層保護と温暖化抑制という課題のもと、世界で唯一、空調機器と冷媒開発の両方を手がけるメーカーとして、次世代冷媒の探索、実用化を進めてきた同社が、現時点で最もふさわしいと判断した新冷媒「R32」をいち早く商品化したものである。

同社の高い研究開発力と省エネルギー技術を生かした「より快適な空気環境」への取り組みは、「環境貢献と事業拡大の両立」という経営理念の具現化であり、真のグローバル企業としての社会的責任を果たすものとして、世界中から高く評価されている。

Corporate Information

ダイキン工業株式会社

1924（大正13）年、飛行機用ラジエーターチューブ等の生産を主とする合資会社大阪金属工業所として発足。1934年に大阪金属工業株式会社として改組・設立、フッ素系冷媒の研究・冷動機の開発を経て、1951年、日本初のパッケージ型エアコンの生産を開始。以来、空調業界を主導する企業となる。1963年、社名をダイキン工業と改め、2010年には空調事業の売上高で世界一位となる。空調機器と冷媒の両方を自社開発できる唯一の企業として、世界の空気環境を担う存在である。

グローバル企業の先輩に聞く！

視野を大きく広げてくれた 入社一年目の中国勤務

高賀真帆さん ダイキン工業株式会社 東京支社 空調営業本部
ナショナルアカウント営業部
グローバルプロジェクトグループ

Q 入社以来の仕事内容について教えてください。

2009年秋に入社してすぐ、ダイキングループの海外事業を統括している「グローバル戦略本部」に配属されました。ここで空調業界のことをゼロから学び、弊社の空気清浄機や空調機に搭載している独自技術の「ストリーマ技術」を世界に展開するプロジェクトに関わりました。

翌年の夏には「大金（中国）投資有限公司」の上海分公司に赴任が決まり、MARKETING本部で中国市場向けの家庭用の製品（ルームエアコンや空気清浄機）を担当しました。2013年10月に帰国し、現在のグローバルプロジェクトグループに配属されましたが、本格的な営業は初めての経験で、ゼロからのスタートと身を引き締めているところです。

Q 中国での仕事についてもう少し詳しく教えてください。

上海での3年間は、中国現地の営業部門や日中の開発部門と関わりながら、商品企画や販売促進などものづくりの現場を経験しました。ダイキンの中国名称「大金」は縁起のいい名前でもあり、空調の高級ブランドとしてお客様に受け入れていただいています。そのブランドにふさわしく、お客様のニーズに答える、性能にこだわった新しいルームエアコンを追求し、現地営業社員と開発メンバー

一丸となって試行錯誤を重ね、床置きタイプのフラッグシップモデルが誕生しました。新商品発表会で、できあがった商品にスポットライトが当たる様子を、ともにプロジェクトに関わった技術者や現地の上司、同僚と見たときは、なにより達成感を感じました。

**Q 中国勤務で苦労したこと
身につけたことは？**

大学時代、台湾に1年間留学して中国語を勉強したのですが、やはり仕事で使うとなると苦労の連続で、日々勉強でした。ただ、語学の重要性は当然として、言葉よりさらに大切なものがあると気づかされた3年間でした。

ものづくりに関わる仕事をするうえで、製品についての知識がまず必要であり、日本の市場がどうなっているかを知っておくことの大切さを身にしみて感じました。経験の浅い私に求められていたのは、よりお客様目線に近いところで商品を考えることだったと、今にして思います。

中国では、毎日が新しい気づきの連続でした。変化の激しい街の雰囲気や、異なる文化、言葉もちろんですが、ものをつくる過程では、色の感覚の違い、空調に対する感覚の違いなど、毎日のように新しい発見があり、刺激に満ちた日々を過ごすことができました。異なる文化や価値観を持つ人たちとコミュニケーションをとりながら、共通の目標に向かって進んでいくのは楽しい事ばかりではありません。しかし、開発者の熱い想いに触れ、現地

の同僚たちと触れあうことで、ものづくりのおもしろさや、海外で働くことの楽しさを教えてくれました。私の視野を広げてくれた海外勤務の経験は、今後仕事をしていくうえで大きく生かしていけると感じています。

Q 大学生活の
過ごし方について
アドバイスを。

私の通っていた大学は、教員と学生の半数が外国人という環境だったこともあり、留学を含めた海外への関心が自然に育まれました。

大学3年次からは、アメリカに半年、続けて4ヵ月間、船上で大学の授業を受けながら香港～オランダの各地をめぐるプログラムに参加し、その留学しました。特に船上で世帯学生と共同生活をしながらは、日本人が一人きりだったことが大きく変わる体験でした。

学生の間に留学などの異文化



することは、それまでとは違う価値観に触れてきたということ。そうした経験をなるべく多く重ねていけば、就職活動で困難に直面した時も、自分が何をやりたいかを深く考えるチャンスだ……とポジティブにとらえて行動することができるのではないのでしょうか。

高賀さんのお仕事 アイテム

電子辞書は学生時代に留学していた頃から使っているもの。カメラは、上海支社でルームエアコンや空気清浄機の商品企画、カタログなど販促物の作成に関わっていた時に、常に身につけるようになりました。



私の米国留学

アメリカ留学もIELTS™の時代へ

～IELTS はアメリカの約 3,000 の大学・プログラムで認定されています～

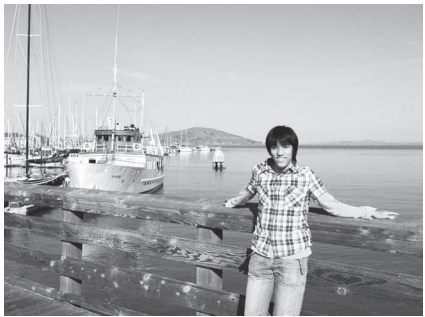


起業家精神あふれる環境で 自分の進む道を見つけたい

可能性を広げるため リベラルアーツ教育を選択

高校1年生のときに参加した国際サマーキャンプを通じて自分の視野が広がるのを感じ、留学の持つ可能性に気づきました。その後、大学受験について本格的に考えはじめたとき、たいした知識もない高校生の自分が大学入学前に専攻を決めてしまうことに違和感を持ち、リベラルアーツ教育がベースにあるアメリカの大学でまずは幅広い教養を身につけたいと思ったのです。

なかでもスタンフォード大学を選んだのは、「クォーター制」を採用しているから。他大学では一般的に1年を2学期にわけ



サンフランシスコ市街まで電車で1時間ほど。



豊かなリベラルアーツ教育から よい化学反応が生まれています

「苦手」から始まった アメリカへの留学

私が海外の大学を目指したのは、実は「数学が苦手」という消極的な理由でした。高校2年生のときに数学の模試で0点を取ってしまい、すっかり日本の大学受験が怖くなってしまったのです。一方で、5歳から8歳まで韓国のインターナショナルスクールに通ったこともあって英語は得意でしたから、当時AO入試を採用していたアメリカの大学に進んだのは自然な流れでした。スタンフォード大学で4年間学んだ後、タイで1年半英語教育に携わり、現在はカリフォルニア大学ロサンゼルス校の博士課程で文化人類学を研究しています。

論文に没頭する 大学院での研究生活

学部、大学院ともにアメリカ・カリフォルニア州で過ごしましたが、それぞれ学生生活は大きく違います。学部時代は寮に暮らしながら、毎日学問と課外活動にあけくれていました。テスト期間中は、大学構内のカフェや寮のコンピュータールームで、夜を徹して知識

メスター制を採用していますが、1年を4学期にわけクォーター制の環境なら、授業のテンポがよく、より多くの種類の科目を選択するチャンスがあるため、将来の可能性を広げたい自分にはうってつけだと考えました。

各分野の最先端に触れる ユニークな授業

その目論見通り、入学後はさまざまな分野の授業を受講しています。数学、経済学、論理学、心理学、哲学、演劇、中国語……。今後の専攻はまだ模索中ですが、興味あることにはまずトライしたうえで、自分の専門分野をしぼっていききたいですね。

また、キャンパス内でよく著名人を見かけます。スタンフォード大学は、最先端のテクノロジーが次々と生まれるシリコンバレーにあり、教育の根幹にも起業家精神が脈々と流れています。ですから、第一線で活躍する実業家の話を聞く機会に恵まれていて、つい先日FacebookのCEO、マーク・ザッカーバーグ氏による特別講義に参加しました。ほかにも、ノーベル賞受賞者の授業が開講されるなど、大学の持つ広いネットワークと学びの機会の多さにはいつも驚かされます。

を詰め込んだり、レポートを書いたり。寮生とともに切磋琢磨する生活はとても楽しいものでした。大学院生になるとアパート暮らしに変わり、一人もくもくと研究書を読んでは論文を書く日々を送っています。また、教授の研究や授業を手伝うTeaching Assistantの活動は責任も重く、仕事に近い感覚ですね。

何を学ぶかは自分次第 大学は可能性を広げる場

アメリカの総合大学は、広い教養と視点を身につけるためのリベラルアーツ教育が基盤にあります。そのため、開講される授業はありとあらゆる分野に広がり、学生は興味があれば何でも自由に履修することができます。



仲間とフットボール観戦。母校の勝利に大喜び。

多くの日本人学生が、未来に大きな夢を描き、アメリカの大学や大学院に留学している。

彼らはどのような生活を送り、どのようなことを学んだのだろうか。その十人十色の体験談は留学を考える読者のみなさんに、たくさんのヒントと勇気を与えてくれるだろう。

寮生活で経験する 仲間との貴重な時間

オフの楽しみは、学内スポーツチームの応援に出かけること。最近ではスタンフォード大学が2年連続、アメリカンフットボールのリーグ大会で優勝し、学内はたいへんな盛り上がりを見せました。

寮生活も気に入っていますね。夜遅くまで勉強する日は、よく寮生同士連れ立って食堂へ夜食を食べに行きます。眠たい目をこすりながら同じテーブルを囲んで食べる夜食の味は格別。実際、特別おいしいわけではないのですが（笑）、こうした時間こそ寮生活でしか得られない貴重な経験です。

まだ大学に入って1年目ですので、将来のことは何も決めていませんが、豊かな学習環境で試行錯誤しながら学ぶうちに未来の見通しを立て、その道に進む覚悟と自信を身につけたいですね。それが4年間のゴールです。



おそろいのTシャツを着てアメフト観戦。



カフェにパソコンを持ち込む勉強スタイルが定番。

例えば、私はスタンフォード大学時代、現在の研究テーマでもある「文化人類学」と、もともと大好きだった「映画」を2本柱にすえて、カリキュラムを組み立てました。また、「演劇」と「アジア系アメリカ人研究」の授業を受講した友人は在学中、アジア系移民がアメリカ社会で直面する諸問題をテーマに舞台を作り上げました。斬新な舞台を成功させた彼は今、劇作家として活躍しています。履修の選択肢が豊富だからこそ一見つながらの分野同士が化学反応を起こし、新しいモノ・コトが生まれることも珍しくありません。

このように、リベラルアーツ教育のすばらしさを自ら体感してきたため、博士課程修了後も教育者・研究者として引き続き学びの場に身を置きたいと考えています。アメリカで日本文化に関する講義を行うのもいいし、日本に戻り、アメリカで養った知見を広めるのもいいかもしれません。両国の教育に貢献できるような道に進みたいですね。

スタンフォード大学
山根 寛さん

東京都出身。6歳から12歳までをマレーシアのインターナショナルスクールで過ごす。帰国後、中学受験を経て国立中高一貫校へ進学。2013年にスタンフォード大学に入学。



山根さんに一問一答！

Q 留学して成長したと思うことは？
もともと口達者ではない自分も、常に意見を求められる環境に身を置くうちに質問に対して即興で考えや知識をまとめ、「それなりの」答えを返せるようになりました。とはいえ、現地の学生に比べるとまだまだだと痛感しており、トレーニングの日々です。

Q 実りある留学にするための秘訣は？
取捨選択をすること。留学先での時間は限られているので、自分のしたいこと、したくないことの線引きは常に必要です。なんとなく行動していると無駄な時間を過ごしてしまいがちなので、僕自身も気をつけたいことです。

Q 留学を目指す読者にアドバイスを
海外で学ぶ目的をもう一度確認してください。人に自慢できるような理由をでっかくあげるのではなく、恵まれた日本でなくあえて海外を選ぶ理由がそこにあるなら、後悔しないと思います。

カリフォルニア大学ロサンゼルス校
西嶋 諒子さん

福岡県出身。日本の高校を卒業後、スタンフォード大学へ進学。在籍中に北京へ交換留学。2008年より1年半タイに滞在し、現在カリフォルニア大学ロサンゼルス校博士課程に在籍。



西嶋さんに一問一答！

Q 留学して成長したと思うことは？
大学1年目と比べると読み書きの速度はあがり、討論での積極的な発言もできるようになりました。成長というよりも、現地の生活に慣れ、物怖じしなくなったということかもしれません。

Q 実りある留学にするための秘訣は？
日本を発つ前からなるべく語学力を伸ばしておくこと。留学したときに英語が「使える」状態だと、情報の吸収量が格段に増えます。英語は留学の目的ではなく、目的を達成するためのツールだということを再確認して。

Q 留学を目指す読者にアドバイスを
留学と聞くと、積極的で自己主張ができる「グローバル人材」を目指す過程のようなイメージがありますが、私のように消極的な理由から始まる場合もあります。尻込みしている人も留学を前向きに検討してほしい。自分に合うスタイルがきっと見つかるはずです。

Scholarship List

奨学金情報

みなさんの留学をサポートしてくれる奨学金制度をご紹介します。それぞれ、年齢や居住地域など応募条件が異なるため、必ず事前に問い合わせしてから応募しよう。

1) 給付元 2) 募集期間 3) 募集人数 4) 給与内容 5) お問い合わせ

日本政府奨学金

● 海外留学支援制度（長期派遣）

- 1) 独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）
- 2) 11月中旬まで、あるいは各大学に問い合わせ
- 3) 未定
- 4) 月額 89,000 円～148,000 円（派遣先地域による）、授業料実費（上限 250 万円）
- 5) 03-5520-6014（留学生事業部留学生交流支援課 長期派遣担当）

● 海外留学支援制度（短期派遣）

- 1) 独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）
- 2) 在籍大学に問合せ
- 3) 未定
- 4) 月額 6 万円～10 万円（派遣先地域による）
- 5) 03-5520-6014（留学生事業部留学生交流支援課 短期留学（派遣）担当）

地方自治体奨学金

● 茨木市国際親善都市協会 留学生奨学金

- 1) 茨木市国際親善都市協会
- 2) 5 月末頃まで
- 3) 20 名程度
- 4) 年額 6 万円
- 5) 072-620-1604

● 埼玉県・オハイオ州スカラシップ 機械工学系

- 1) ニッシン・ブレイキ・オハイオからフィンドレー大学に寄附
- 2) 10 月初旬締め切り
- 3) 2 名
- 4) 2 万ドル（授業料、住居費等）
- 5) 048-830-2713（県民生活部 国際課 国際戦略担当）

● 埼玉県・オハイオ州スカラシップ 総合系

- 1) 埼玉県
- 2) 10 月初旬締め切り
- 3) 1 名
- 4) 授業料
- 5) 048-830-2713（県民生活部 国際課 国際戦略担当）

● 「埼玉発世界行き」学位取得コース

- 1) 埼玉県グローバル人材育成基金
- 2) 4 月下旬～6 月初旬
- 3) 10 名以内
- 4) ①年間世帯所得が 600 万円未満の方、年間 100 万円以内 ②同 600 万円以上 800 万円未満の方、年間 75 万円以内 ③同 800 万円以上の方、年間 50 万円以内
- 5) 048-830-2711（県民生活部 国際課 グローバル人材育成担当）

● 「埼玉発世界行き」協定・認定留学コース

- 1) 埼玉県グローバル人材育成基金
- 2) 4 月下旬～6 月初旬
- 3) 200 名以内
- 4) 20 万円以内
- 5) 048-830-2711（県民生活部 国際課 グローバル人材育成担当）

● 「埼玉発世界行き」高校生留学コース

- 1) 埼玉県グローバル人材育成基金
- 2) 4 月下旬～6 月初旬
- 3) 50 名程度
- 4) ①保護者の所得が 600 万円未満の場合：留学期間 179 日以下 30 万円、留学期間 180 日以上 60 万円 ②保護者の所得が 600 万円以上 800 万円未満の場合：留学期間 179 日以下 23 万円、留学期間 180 日以上 45 万円 ③保護者の所得が 800 万円以上の場合：留学期間 179 日以下 15 万円、留学期間 180 日以上 30 万円
- 5) 048-830-2711（県民生活部 国際課 グローバル人材育成担当）

● 戸田市海外留学奨学制度

- 1) 埼玉県戸田市
- 2) 2 月 6 日
- 3) 若干名
- 4) 授業料及び生活費、渡航費
- 5) 048-441-1800（教育委員会 教育総務課 総務担当）

●（公財）長岡市米百俵財団 海外高校留学生奨学金

- 1)（公財）長岡米百俵財団
- 2) 6 月初旬～8 月初旬
- 3) 3 名程度
- 4) AFS または YFU のプログラム参加費（AFS：130 万、YFU：118 万）
- 5) 0258-39-2203（事務局）

●（公財）新潟市国際交流協会 新潟市高校生留学支援事業

- 1)（公財）新潟市国際交流協会
- 2) A 日程：6 月初順 B 日程：7 月初旬
- 3) 3 名
- 4) プログラムの参加費半額
- 5) 025-225-2727（高校生留学支援事業係）

● 松本・土井アイリン海外留学助成金

- 1) 宝塚市
- 2) 2 月 14 日応募〆切（2014 年 4 月から留学を開始される方）
- 3) 未定
- 4) 留学 1 回につき 60 万円
- 5) 0797-77-2009（産業文化部 宝のまち創造室 国際文化課）

● 三重県私費海外留学生奨学金

- 1) 三重県
- 2) 3 月上旬～4 月中旬
- 3) 10 名以内
- 4) 年間授業料相当額
- 5) 059-223-5006（（公財）三重県国際交流財団）

● 瑞穂町海外留学奨学資金等支給制度

- 1) 瑞穂町教育振興基金
- 2) 毎年 6 月 1 日～6 月 30 日（第 1 期）
毎年 1 月 4 日～1 月 31 日（第 2 期）
- 3) 若干名
- 4) 奨学資金（留学先学校の授業料またはこれに準ずると認められる費用）、渡航費
- 5) 042-557-7469（企画部 企画課）

● 山梨県アイオワ州短期派遣留学生

- 1) アイオワ州姉妹州委員会または留学先
- 2) 4 月下旬まで
- 3) 1 名
- 4) 12 単位分の授業料など
- 5) 055-223-1436（山梨県観光部 国際交流課 国際交流担当）

● 山梨県派遣留学生

- 1) 忠清北道
- 2) 1 月上旬まで
- 3) 1 名
- 4) 支度料、滞在費、国内旅費、語学研修費、宿舍管理費、厚生費など
- 5) 055-223-1436（山梨県観光部国際交流課 国際交流担当）

● 四日市市科学教育奨学金

- 1) 四日市市教育委員会
- 2) 5 月～7 月まで
- 3) 毎年 1 人
- 4) 月額 10 万円
- 5) 059-354-8236（教育総務課）

● 淀江町青少年ゆめ基金活用事業補助金

- 1) 淀江町青少年ゆめ基金活用委員会
- 2) 未定 3) 未定
- 4) 学費、渡航費を 200 万円まで
- 5) 0859-56-3164

民間団体奨学金

● IRENA Scholarship Programme

- 1) 国際再生可能エネルギー機関（IRENA）
- 2) 5 月末
- 3) 最大 20 名
- 4) 授業料、教材費、ノートパソコン、医療保険、住居費、旅費、一部生活費支給
- 5) scholars@irena.org

●（公財）アステラス病態代謝研究会 海外留学補助金

- 1)（公財）アステラス病態代謝研究会
- 2) 4 月初旬～6 月中旬
- 3) 10 名程度
- 4) 1 名あたり 200 万円
- 5) 03-3244-3397（事務局）

●（公財）飯塚教育英会 海外留学支援奨学金

- 1)（公財）飯塚教育英会
- 2) 6 月中旬～7 月下旬
- 3) 15 名程度
- 4) 大学生：年額 40 万円 大学院修士課程：年額 60 万円 大学院博士課程：年額 80 万円
- 5) 028-649-2121（事務局）

● 石橋財団奨学金（日本国際教育支援協会冠奨学金）

- 1)（公財）石橋財団
- 2) 6 月下旬まで
- 3) 5 名
- 4) 月額 15 万円
- 5) 03-5454-5274（日本国際教育支援協会 国際交流課 奨学係／担当：藤田）

●（公財）伊藤国際教育交流財団 日本人奨学金

- 1)（公財）伊藤国際教育交流財団
- 2) 6 月下旬～8 月中旬
- 3) 13 名
- 4) プログラム A：生活費月額 18 万円（US2000 ドル相当）、学費、往復旅費 プログラム B：生活費月額 13 万 5000 円～18 万円、学費、往復旅費
- 5) 03-3299-7872（伊藤国際教育交流財団事務局）

● イリノイ大学日本同窓会 小山八郎記念奨学制度

- 1) イリノイ大学日本同窓会
- 2) 10 月末まで
- 3) 4 名
- 4) 年間授業料
- 5) masa.furuichi@illini-club.jp（日本同窓会事務局／担当：古市）

● オリेंट財団奨学金

- 1) Fundacao Oriente
- 2) 毎年 1 月
- 3) 若干名
- 4) 学費、渡航費（往復）など
- 5) info@foriente.pt

● Kiyo Sakaguchi 奨学金

- 1) ブルデンシャル生命保険株式会社
- 2) 未定 3) 1、2 名
- 4) 授業料年間最大 300 万円、最長 4 年
- 5) 03-5501-5355（広報チーム）

●（公財）グルー・バンクロフト基金 奨学金制度

- 1)（公財）グルー・バンクロフト基金
- 2) 9 月中旬まで
- 3) 5 名
- 4) ①毎年 200 万円を 4 年間支給。ただし留学先より授業料（全額）を免除される場合は、生活費として 100 万円を 4 年間支給（3 名） ②毎年 1 万ドルを 4 年間支給
- 5) 03-3408-6343

● 群馬県大学生海外留学奨学金

- 1)（公財）ぐんま国際教育財団
- 2) ～4 月中旬
- 3) 一般留学：3 名 研修留学：5 名
- 4) 一般留学：60 万円 研修留学：30 万円
- 5) 0276-60-3450

● 公益信託グラクソ・スミスクライン国際奨学金基金

- 1) グラクソ・スミスクライン株式会社
- 2) 4 月 1 日～5 月中旬頃
- 3) 3 名以内
- 4) 年額 360 万円を 2 年間支給
- 5) 03-5786-5000

● 皇太子明仁親王奨学金

- 1) 皇太子明仁親王奨学金財団およびハワイ大学財団
- 2) 11 月中の 12 日間
- 3) 1 名
- 4) ハワイ大学の学費、生活費等として年間 2 万 5 千ドル、渡航旅費（上限あり）
- 5) 03-6741-0161（皇太子明仁親王奨学金日本委員会）

● 交流協会奨学金留学生

- 1)（公財）交流協会
- 2) 10 月下旬まで
- 3) 若干名
- 4) 奨学金：14 万 4000 円（修士課程及び専門職学位課程）、14 万 5000 円（博士課程）の月額基本額に加え、特定の地域で修学・研究する者に対して、月額 2000 円又は 3000 円を加算して支給、授業料、帰国旅費
- 5) 03-5573-2600（総務部 奨学金担当）

● 国際ロータリー グローバル補助金

- 1) 国際ロータリーのロータリー財団
- 2) 未定 3) 未定
- 4) 3 万ドル以上
- 5) 各地区ロータリー財団委員会事務局

● 国際ロータリー 新地区補助金

- 1) 国際ロータリーの各地区のロータリー財団
- 2) 各地区により異なる
- 3) 各地区により異なる
- 4) 制限なし
- 5) 各地区ロータリー財団委員会事務局

● 佐藤陽国際奨学財団 海外派遣留学生奨学制度

- 1)（公財）佐藤陽国際奨学財団
- 2) 未定 3) 未定
- 4) 奨学金月額 8 万円、渡航費、交換留学一時金 10 万円
- 5) 03-5487-2775（事務局）

● CWAJ 海外留学大学院女子奨学金（SA）

- 1) College Women's Association of Japan
- 2) 10 月下旬～10 日間程度
- 3) 1 名
- 4) 300 万円
- 5) scholarship@cwaj.org

● 静岡市国際交流協会

- 1) 静岡県国際交流協会
- 2) 5 月中旬まで
- 3) 1 名
- 4) 正規授業料減免（通常の約 3 分の 1、約 70 万円の減額）最長 5 年間、渡航費一部負担
- 5) 054-354-2009

● 私費訪中留学生奨学金

- 1)（公財）東華教育文化交流財団
- 2) 毎年 6 月
- 3) 未定
- 4) 月額 3 万円
- 5) 03-3571-7613

● 秀桜基金留學賞

- 1) 秀桜基金
- 2) 9 月 1 日～10 月 31 日
- 3) 3 名
- 4) 300 万円
- 5) 086-528-9530（秀桜基金事務局）

● 高橋&ハワット記念奨学金

- 1) NPO 日本スコットランド協会
- 2) 3 月 1 日～4 月 30 日
- 3) 2 名
- 4) 30 万円
- 5) 03-6380-5256

● ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業

- 1)（公財）ダスキン愛の輪基金
- 2) 11 月末日
- 3) 5～8 名程度
- 4) 上限 4 万 US ドル（渡航費・研修委託費・日常生活費等）
- 5) 06-6821-5270

●（公財）中島記念国際交流財団 日本人海外留学奨学生

- 1)（公財）中島記念国際交流財団
- 2) 6 月上旬に発表予定
- 3) 10 名程度
- 4) 奨学金：月額 20 万円、渡航費：往復支給、支度金：20 万円、授業料：留学当初の 2 年間に限り、年間 300 万円以内を支給
- 5) 03-5770-8210

●（公財）中富健康科学振興財団 留学助成金

- 1) 久光製薬株式会社
- 2) 7 月 1 日～9 月 30 日
- 3) 未定
- 4) 留学助成金 1 名あたり 50 万円
- 5) Web で問合せ（中富健康科学振興財団 東京事務局）

● 日本／世界銀行 共同大学院奨学金制度

- 1) レギュラープログラム
- 2) 世界銀行本部
- 3) 3 月末
- 3) 10 名程度
- 4) 学費、生活費、渡航費、医療保険
- 5) jwbgs@worldbank.org（奨学金事務局）※英語のみ

● 日本／世界銀行 共同大学院奨学金制度 NGO プログラム

- 1) 世界銀行本部
- 2) 3 月末
- 3) 5 名程度
- 4) 学費、生活費、渡航費、医療保険
- 5) jwbgs@worldbank.org（奨学金事務局）※英語のみ

● 馬場財団国際理解教育人材養成奨学金

- 1)（公財）日本国際教育支援協会
- 2) 1 月末
- 3) 7 名程度
- 4) 渡航費（成田・関西から留学先主要都市までの往復相当）、奨学金（月額 10 万円×留学月数〔3 ヶ月以上 12 ヶ月以内〕）
- 5) 03-5454-5274（事業部 国際交流課／担当：松田）

● Funai Overseas Scholarship

- 1)（公財）船井情報科学振興財団
- 2) 7 月中旬～10 月中旬
- 3) 10 名程度
- 4) 授業料全額、医療保険費全額、生活費月額 2500 ドル、支度金 50 万、渡航費
- 5) 03-3254-5635（財団事務局）

●（公財）平和中島財団 日本人留学生奨学生

- 1)（公財）平和中島財団
- 2) 9 月～10 月
- 3) 15 名
- 4) 学部生：月額 15 万円、渡航費 大学院生：月額 20 万円、渡航費
- 5) 03-5570-5261（事務局 日本人留学生係）

●（公財）松下幸之助記念財団 松下幸之助国際スカラシップ

- 1)（公財）松下幸之助記念財団
- 2) 2014 年 3 月に募集要項を HP 掲載予定
- 3) 最大 10 名
- 4) 月額 13～15 万円を 1 年または 2 年分、渡航費
- 5) ajisuka@gg.jp.panasonic.com

● 村田海外留学奨学金

- 1)（公財）村田海外留学奨学会
- 2) 7 月初旬～8 月末
- 3) 2～4 名
- 4) 学費、生活費、渡航費など留学に要する経費
- 5) 075-681-2345（事務局）

●（公財）明治安田クオリティオブライフ文化財団

- 1) 「海外音楽研修生費用助成」制度
- 2)（公財）明治安田クオリティオブライフ文化財団
- 3) 4 月 11 日
- 4) 4 名程度
- 5) 年額 200 万円（原則 2 年間）

●（公財）ヤマハ発動機スポーツ振興財団 海外留学生奨学金

- 1)（公財）ヤマハ発動機スポーツ振興財団
- 2) 9 月上旬～11 月中旬
- 3) 若干名
- 4) 月額 10 万円（最長 2 年間）
- 5) 0538-32-9827

●（公財）吉田育英会 日本人派遣留学プログラム

- 1)（公財）吉田育英会
- 2) 9 月下旬まで
- 3) 5 名
- 4) 生活滞在費：月額 20 万円、学校納付金：合計 250 万円以内、扶養補助（該当者のみ）、渡航費
- 5) 03-5610-8103（吉田育英会事務局）

外国政府等奨学金

● ヴァニエ・カナダ大学院奨学金

- 1) カナダ社会・人文科学研究会議、カナダ自然科学・工学研究会議、カナダ保健研究機構の 3 つの連邦給付機関
- 2) 9 月から
- 3) 最大 500 名
- 4) 年間 5 万カナドル（最長 3 年）
- 5) vanier@cihir-irsc.gc.ca

● オーストラリア政府奨学金 エンデバー大学院奨学金

- 1) オーストラリア国際開発庁および技術革新産業科学研究高等教育省
- 2) 4 月 1 日～6 月 30 日（オーストラリア時間）
- 3) 未定
- 4) 最高で、博士課程：22 万 8500 オーストラリアドル、修士課程：11 万 8500 オーストラリアドル
- 5) endeavour.awards@innovation.gov.au

● オーストラリア政府奨学金

- 1) エンデバー・ユン・コン研究奨学金
- 1) オーストラリア国際開発庁および技術革新産業科学研究高等教育省
- 2) 4 月 1 日～6 月 30 日（オーストラリア時間）
- 3) 未定
- 4) 最高で、2 万 3500 オーストラリアドル
- 5) endeavour.awards@innovation.gov.au

● オーストラリア政府奨学金 エンデバー研究フェロシップ

- 1) オーストラリア国際開発庁および技術革新産業科学研究高等教育省
- 2) 4 月 1 日～6 月 30 日（オーストラリア時間）
- 3) 未定
- 4) 最高で、2 万 3500 オーストラリアドル
- 5) endeavour.awards@innovation.gov.au

● オーストラリア政府奨学金 エンデバー専門技術奨学金

- 1) オーストラリア国際開発庁および技術革新産業科学研究高等教育省
- 2) 4 月 1 日～6 月 30 日（オーストラリア時間）
- 3) 未定
- 4) 最高で、11 万 9500 オーストラリアドル
- 5) endeavour.awards@innovation.gov.au

● 高円宮記念クイーンズ大学奨学金

- 1) クイーンズ大学、在日カナダ大使館
- 2) 2014 年 3 月 25 日〆切
- 3) 未定
- 4) 2 万 5000 カナダドル
- 5) awards@queensu.ca

● Dr Goh Keng Swee Scholarship

- 1) Association of Banks in Singapore（ABS）
- 2) 2014 年 2 月 19 日必着
- 3) 3～4 名
- 4) 学費および必要経費、渡航費（往復）、生活扶助（年間 6500 シンガポールドル）、寮費、準備金（200 シンガポールドル）
- 5) applications@psd.gov.sg

● バンティング博士研究員奨励金

- 1) カナダ保健研究機構、カナダ自然科学・工学研究機構、カナダ社会・人文科学研究機構の 3 つの連邦研究助成機関
- 2) 7 月～10 月下旬まで
- 3) 各年 70 名
- 4) 年間 7 万カナダドルを 2 年間
- 5) banting@researchnet-recherchenet.ca

● 大学院留学（学術系学位）プログラム

- 1) 日米教育委員会（フルブライト・ジャパン）
- 2) 3 月募集発表
- 3) 約 20 名（「大学院博士論文研究プログラム」を含む）
- 4) 渡航費、生活費（留学先によって金額が異なる）、授業料（大学院留学プログラムのみ）および家賃、着後雑費、別送荷物、同伴家族に対する補助手当て。また、疾病・障害をカバーするフルブライトグループ保険（本人のみ）
- 5) 03-3580-3233

● 大学院留学（専門職学位）プログラム

- 1) 日米教育委員会（フルブライト・ジャパン）
- 2) 3 月募集発表
- 3) 約 5 名
- 4) 渡航費、生活費（留学先によって金額が異なる）、授業料（大学院留学プログラムのみ）および家賃、着後雑費、別送荷物、同伴家族に対する補助手当て。また、疾病・障害をカバーするフルブライトグループ保険（本人のみ）
- 5) 03-3580-3233

● 大学院博士論文研究プログラム

- 1) 日米教育委員会（フルブライト・ジャパン）
- 2) 2 月募集発表
- 3) 約 20 名（「大学院留学学術系学位プログラム」を含む）
- 4) 渡航費、生活費（留学先によって金額が異なる）、授業料（大学院留学プログラムのみ）および家賃、着後雑費、別送荷物、同伴家族に対する補助手当て。また、疾病・障害をカバーするフルブライトグループ保険（本人のみ）
- 5) 03-3580-3233

● 研究員プログラム

- 1) 日米教育委員会（フルブライト・ジャパン）
- 2) 2 月募集発表
- 3) 約 10 名
- 4) 渡航費、生活費（留学先によって金額が異なる）、授業料（大学院留学プログラムのみ）および家賃、着後雑費、別送荷物、同伴家族に対する補助手当て。また、疾病・障害をカバーするフルブライトグループ保険（本人のみ）
- 5) 03-3580-3233

● ジャーナリストプログラム

- 1) 日米教育委員会（フルブライト・ジャパン）
- 2) 2 月募集発表
- 3) 若干名
- 4) 渡航費、生活費（留学先によって金額が異なる）、授業料（大学院留学プログラムのみ）および家賃、着後雑費、別送荷物、同伴家族に対する補助手当て。また、疾病・障害をカバーするフルブライトグループ保険（本人のみ）
- 5) 03-3580-3233

経済団体連合会奨学金

● 日本人大学院生奨学生

- 1)（公財）経団連国際教育交流財団
- 2) 9 月上旬から 3 週間程度
- 3) 経団連国際教育交流財団奨学生 1 名 東京倶楽部奨学生 1 名
- 4) 年間 350 万円（使途は留学先の学費、生活費等、留学に関わる支出に限る）
- 5) 03-6741-0162

IELTS Hot News

京都大学は、IELTSの準備テスト「Aptis」を活用して、英語ディスカッション能力の成果を測ろうと、「The R/Lead International Project」を実施している。その総まとめとなる最終コンテストが開催された。

Aptisで効果を正しく測定 京都大学の英語プログラム

ディスカッション能力の 向上を目指して

京都大学では、平成25年度・全学経費採択事業—国際化推進支援—のもと、英語ディスカッション能力の向上を目的に「The R/Lead International Project」を立ち上げた。参加者の英語能力の伸びを測るため、プロジェクトの前後に、IELTS 準備テストとして知られる「Aptis」を実施するのが特徴だ。プロジェクトのキックオフ・オープンフォーラムが開催されたのは、昨年10月8日のこと。日本英語交流連盟の紹介でパラメンタリーディベーターを招聘し、ディベートが実演された。また、同じテーマで、京都大学のファシリテーター代表によるディスカッションのデモンストレーションも行われ、参加した学生は、ディベートとディスカッションの違いについて学ぶことができたようである。

指定図書を題材に グループ討議を重ねる

97名にのぼるプロジェクトの参加者は、



毎週、事前に借りた本を読み、チームごとに集まって45分間の英語ディスカッションを行う。ファシリテーター養成プログラムの特別研修を受けた留学生、あるいは海外留学経験者が、各グループのファシリテーター（司会進行役）として参加する。このディスカッションは、各チームとも10回実施した。60タイトル以上の洋書の指定図書は、R/Leadの運営事務局側が用意。調査によると、参加者は平均2～3時間をディスカッションの予習に費やしていたという。

本プロジェクトでは、「Aptis」を導入して参加者の英語運用能力の評価を行った。プロジェクトの目的が多読（語彙力・読解力を中心とした受容技能の蓄積）を通じて、ディスカッションでの発話量（産出技能、具体的には自発的なスピーキング能力）を増やすことであるため、評価したい技能を抽出して試験内容をカスタマイズできる「Aptis」は使い勝手が良い。第一回目のテストはプロジェクト開始時に実施し、92名が受験した。二



特別研修を受けたファシリテーターの学生によるデモンストレーション。



チームごとに45分間のディスカッションを10回実施。



コンテストでも練習同様45分間のディスカッションを行う。準備をする学生の表情は真剣そのもの。

回目のテストはプロジェクト終了後に行う予定である。

教育効果の測定にも 「Aptis」が有効

プロジェクトの集大成となる最終コンテストは、昨年12月14日に行われた。参加者には、前日に与えられた指定図書3冊（計300ページ）に関するトピッククエスチョン（課題）が開始直前に提示され、45分間のディスカッション時間が与えられる。課題はチームごとに異なり、発表は1チームにつき8分。ファシリテーターはコーチングの役割のみを果たし、発表者にはなれない。

このコンテストのKeynote SpeakerとしてMr. Jeff Streeter (Director British Council, Japan) を招き、特別講演「Is Reading 21st Century Skill?」を拝聴する機会も得た。コンテストの審査委員には、Streeter氏に加え、河端政夫氏（公益財団法人日本英語検定協会・参与）、Mr. Jason Good (President of Booksmart, Inc.)、森純一教授（京都大学国際交流推進機構）が

参加し、学生のプレゼン発表を審査した。

審査の結果、最優秀チーム、準優勝チーム、英検特別賞、IELTS 特別賞、ブックスマート賞、ベストファシリテーター賞、ベストパティシパント賞が参加チームに授与された。

本プロジェクトでは、英語を用いるディスカッション能力の向上という取組みに「Aptis」を用いた英語運用能力の評価を組み入れることで、参加者の英語運用能力の向上にも目配りができる英語教育プログラムをつくることができた。この手法は実験的、試験的に行われる英語教育プログラムの効果を測るうえで有効であり、学内外での広がりが望まれる。

（京都大学 国際交流推進機構 特定助教 西川美香子）

Report

熱戦が繰り広げられた最終コンテスト

グローバル人材育成に向けて、京都大学が熱い！ 英語で議論する能力向上を目指した「The R/Lead International Project」に、学部の壁を越えて100名近い学生が参加している。17のチームに分かれ、ファシリテーター（留学生9名と日本人学生8名）の指導のもと各チームは研鑽を積み、わずか3カ月で今大会に臨む



までに成長したのは驚きだ。テーマに対して賛成・反対の両面から議論点を抽出し、学生たちは時にユーモアを交えてしっかり英語で意見を述べていた。彼らのグローバル舞台での活躍が今から楽しみだ。

（日本英語検定協会 河端政夫）

Aptis

Forward thinking
English testing

Aptis for Japanese University は日本の大学のために設計された 世界基準の英語力評価テストです。

英国の公的な国際文化交流機関のブリティッシュ・カウンシルと、「英検」を創設して50年の歴史を持つ公益財団法人日本英語検定協会が、日本の大学向けに英語テスト「Aptis for Japanese University」をスタートしました。このテストは「文法と語い力（コアモジュール）＋リスニング＋リーディング」という組み合わせで構成され、手軽に、正しく、そしてスピーディに受験者の英語力が測れます。

88
min

試験時間は
授業の時間割にも
組み込みやすい
88分。

受験者が
多い場合でも
導入しやすい
価格。

3,000
円（税別）/人

約 1
週間

テスト結果は
約1週間後に、
申込者宛てにお届け。
CEFR（ヨーロッパ言語参照枠）
との照らし合わせもできるので
世界基準の英語能力を
把握することが可能。

Aptis for Japanese University (大学向けアプティス) に関するお問い合わせはこちらまで

**BRITISH
COUNCIL**

ブリティッシュ・カウンシル
TEL : 03-3235-8031
E-mail : exams@britishcouncil.or.jp

英検

公益財団法人
日本英語検定協会

公益財団法人 日本英語検定協会
TEL : 03-3266-6121

ウェブサイト
www.britishcouncil.or.jp/aptis



ブリティッシュ・
カウンシルの
講師に聞く

IELTS テストのコツ

by Laura Cooper

自分の意見を組み立てる

アカデミック・テストとジェネラル・テストのいずれにおいても、ライティング・テストの Task 2 では、特定の意見や議論を読み、250 語以上で自分の考えを書かなければなりません。目安とされる目標時間は 40 分。今回は、Task 2 の問題に備えるにあたり、するべきこと、避けるべきことなどを紹介します。

Task 2 の質問のタイプには、例えばこのようなものがあります。

- 1) Do you agree or disagree?
(賛成ですか、反対ですか)
- 2) Discuss both views and give your opinion.
(両方の見解について検討し、あなたの意見を述べなさい)
- 3) What are the advantages and disadvantages of...?
(……の利点・欠点は何ですか)
- 4) What is your opinion on this?
(これについてのあなたの意見は何ですか)

1 と 4 は賛成か反対かどちらかに立場を絞る必要があり、2 と 3 は相反する両方の意見についてバランス良く論じる必要があります。さらに自分の意見を忘れずに加えましょう。どちらの場合も裏付けとなる事例を挙げて具体的に論じることが大切です。

また、IELTS のライティング・テストでは、さまざまなパターンの課題文に、数えきれないほど多くの話題が登場します。大切なのは、細かい点にとらわれ過ぎず、重要なことが書かれている部分を見つけ出すことです。テストの緊張の中では難しいかもしれませんが、普段から英語の文章を読む際に要点を抜き出すことを習慣化し、実際に要約してみるといいでしょう。

それでは、例題を出します。話の要点を抜き出し、文章を要約してください。その際、課題文の中で使われているのとは異なる語句を使うよう努力してみてください。

〈例題〉

As the number of people using smartphones and social networking sites has increased, traditional ways of communicating (e.g. letters, phone calls, fax etc.) are dying out.

To what extent do you think this is true?

Why do you think some people don't use tools such as social network sites or smartphones?

Give reasons for your answer and include any relevant examples from your own knowledge or experience.

〈日本語訳〉

スマートフォンや SNS (ソーシャルネットワークサイト) を利用する人が増えるにつれ、手紙や電話、FAX といった昔ながらの通信手段が途絶えようとしています。

これはどの程度本当のことだと考えますか？

SNS やスマートフォンのようなツールを使わない人がいるのはどうしてだと思いますか？

解答には理由を入れ、自身の知識や経験から、関連した例を述べなさい。

要約の例を挙げてみましょう。

Do you think as more people use modern communication technology that old forms are becoming obsolete? Why do some people refuse to embrace them?

より多くの人が近代的な通信テクノロジーを利用するにつれ、古いタイプのものはすたれつつあると思いますか？ 新しいものを取り入れるのを拒絶する人がいるのはなぜですか？

課題文を言い換えて要約すると、重要な点が明らかになってくると同時に、解答文の冒頭に使うことができます。例えば上の要約文をもとに、こういった書き出しをすることが可能です。

In recent years social networks have overtaken older forms of communication. Sadly, I think that

these methods of interaction have definitely begun to render our previous methods of communicating obsolete, although some people still continue to use them.

近年、ソーシャルネットワークは、古いタイプの通信手段に取って代わってきています。残念ながら、これらの交流手段によって、以前の通信手段は間違いなくすたれ始めていますが、なかには以前のものを使い続けている人もいます。

難しい文型にも挑戦しよう

40 分という解答時間は非常に短いですが、少なくとも最初の数分間は、文章の組み立てを考えるのに費やしたいものです。この例題の場合、受験者の多くは、通信手段について自分が知っていることを並べ立て、結果的に質問に対する答えにはなっていない文章になりがちです。しかし、それでは "課題を達成している" という評価が得られず、バンドスコアに影響します。

また、文章の論旨を明確にすることも大切です。まず、段落を有効に活用してください。要点とそれを説明する根拠、議論などを、ひとつの段落にまとめます。段落を意識せずに構成した文章は、高いスコアにはつながりません。

文章のつながり方を考えることも大切です。単純な "first, then, next, finally" (まず、それから、次に、最後に) といったつながり言葉を使うのではなく、別のフレーズを使ってより自然に文章をつなげることで語彙力の高さをアピールすることができます。

最後に、全体的な構成を整えましょう。「導入」「本文 (2～3 段落程度)」「結論」という流れにするのが適切です。導入では、自分が何を言おうとしているかを簡潔に述べておきましょう。

文法や語彙の誤りを恐れるあまり、なかには、全体をシンプルな文体で構成しようとする人がいますが、仮定法など難しい文型を使ってみたいと思うなら、あえて挑戦してみましょう。100% 完全ではなくても、あなたの英語力をアピールできるかもしれません。

一方で、難解な語彙を豊富に持っているとしても、それを多用するのは感心しません。言葉とはコミュニケーションのツールなのですから、もし文章が理解しづらいものになってしまえば、結局は低いスコアに終わってしまうのです。

「自信を持って、自然に、わかりやすく」。ライティング・テストでは、これを常に心がけてください。

IELTS™

IELTS.
The international
license.

IELTS という名の 国際免許証

IELTS (International English Language Testing System、アイエルツ) は、英語圏への留学や、移住を志す人の英語能力を評価するために作られたテストです。信頼性、公平性の高さからイギリス、オーストラリア、アメリカ、カナダを始め世界 135 カ国で約 8,000 の機関が、IELTS を受け入れ基準として認めています。2012 年の全世界合計の受験者数は 200 万人に達し、英語能力試験のグローバルリーダーの役割を果たしています。

日本では、東京、横浜、名古屋、京都、大阪、神戸、広島、岡山、福岡、札幌、仙台、金沢、さいたまで受験することができます。

お問合せ・受験申し込みは、
公益財団法人 日本英語検定協会 IELTS 事務局まで

www.eiken.or.jp/ielts

IELTS とは…

16 歳以上を対象にしたテストで、英語で授業を行う大学や大学院に入学できるレベルに達しているかどうかを評価するアカデミック・モジュールと、英語圏で学業以外の研修を考えている方向けのジェネラル・トレーニング・モジュールの 2 種類があります。いずれも、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの 4 つのテストで構成されています。IELTS は、フェアな試験内容と高い信頼性が特徴のテストです。一般的な英語検定テストと特に異なるのは、1 対 1 の面接形式で行われるスピーキングテストがあることです。試験官が、受験者のコミュニケーション力を最大に引き出し、評価できるようにインタビューを行います。これが、他のテストと一線を画す、生きた英語を習得できる IELTS の強みです。

Listening

+

Reading

+

Writing

+

Speaking

ブリティッシュ・カウンシルでは、IELTS 試験対策コースを東京・横浜で開講中!!

www.britishcouncil.or.jp



勉強法や留学した人の体験談がわかる
<http://www.facebook.com/IELTS.BritishCouncilJapan>

公益財団法人
日本英語検定協会



公益財団法人 日本英語検定協会は、
ブリティッシュ・カウンシルと
日本での IELTS を共同運営しています

IELTS 対策コースナビ

Vol. 2

beoカレッジ ～リーディング編～

日ごろから多彩な文章に触れ 読解力を総合的に養う

必要な情報を すばやく読み取る

大学・大学院留学のための学習を専門にサポートするスクール、beo カレッジの授業をもとに、IELTS リーディングテストの対策を見ていこう。

リーディングテストでは、本や雑誌、新聞記事、論文などから抜粋した3つの文章が登場し、その内容について尋ねる問題が40問出る。なかには、図やグラフが含まれることもある。「時間が60分と限られているので、文章をすべてじっくり読むのではなく、必要な情報をすばやく読み取るスキルが必要です。beo カレッジでは、授業で読み取りの指導をすると同時に、新聞記事などのリーディングを行う宿題を出し、普段からできるだけ多くの英文に触れるよう勧めています」と、同校の渡辺マネジャー。

問題文のテーマは多岐にわたるため、インターネットのニュースサイトなどを利用し、さまざまなスタイルの文章を読めるようになっておくといいそうだ。

さらに解答のコツをつかむためには、ただ読んでいくだけでなく、「タイトルや図を見て、書かれていることを予測する」「記事にざっと目を通して、重要な部分に印をつける」「各段落を要約する文を自分で書いてみる。その際に、問題文中で使われているのとは異なる単語を使ってみる」といった工夫をすることが求められる。

正答を決めた理由を 授業で話し合う

語彙は、1語1語意味を覚えていくのではなく、さまざまな文章を読むことで、文脈の中で身につけていく。beo カレッジでは、アカデミック・ワード・リスト (Academic

留学準備をサポートする多くの機関やスクールが、IELTS 対策に的を絞ったコースを開講している。独学では得られない多くの気づきを与えてくれるIELTS 対策コース。今回は beoカレッジのリーディング対策に焦点をあてる。

Word List = AWL) に収録されている語彙の習得を勧めている。これは、ニュージーランドの大学で開発された大学レベルの頻出単語リストで、今では高い教育を受けた社会人が持っているべきボキャブラリーとして、英語教育の世界で広く利用されている。このAWLの語彙を身につければ、将来英語圏の大学に留学した際も、論文を読んだり書いたりするうえで必ず役に立つはずだ。

ある程度読解力がついてきたら、解答テクニックも意識してみよう。例えば、練習問題を使って答えを制限時間内に書くことができるようにする、問題文中の該当箇所を抜き書きする際、正確に写すことができるよう心がける、といったことだ。特に、答えを数字や

記号ではなく英語で書かなければならない場合もあることから、スペルミスや単純な文法ミスには十分注意しなければならない。

「授業では、受講生は自分の答えを発表するだけでなく、なぜその答えを選んだのか、他の選択肢が間違っていると思う理由は何か、といったことを話し合います。それによって、より問題文への理解を深めることができるのです」と、講師のスチュアート・アンダーソンさんは話す。

問題文は難解なものではなく、専門的な語彙が出てくるときには問題用紙に語注がついてくる。語彙の習得にこだわりすぎず、内容を楽しみながら読むつもりでいると、多くの英文を読むのも苦ではなくなってくるだろう。

授 業 レ ポ ー ト

読んで、考え、発表する

「大学院留学準備コース」のIELTS 対策授業で、リーディングの指導を見学した。海外のテキストを使い、「リーディング」「リスニング」「スピーキング」などを同時に学ぶようになっている。

この日のテーマは、City attractions (街の見どころ)。イギリスのエジンバラ観光についての紹介文を読みつつ、because や so that を使って理由や結果を説明する方法を理解する。

まず、Which city would you like to visit, and why? (どの都市を訪ねたいですか、理由は何ですか) といったことを受講生間で話し合い、外国の観光地の魅力について考える。本文を読むときは理由を表す文に注目し、Why is

the castle popular? (その城に人気があるのはなぜですか?) といった講師の質問に答える。受講生たちは、他の人の答えを聞いて、足りないところがあれば自分から進んで補っていく。読んで理解するだけでなく、自分で考えて表現する力が求められているようだった。



beo カレッジ <http://beocollege.jp/>

Book IELTS 攻略本

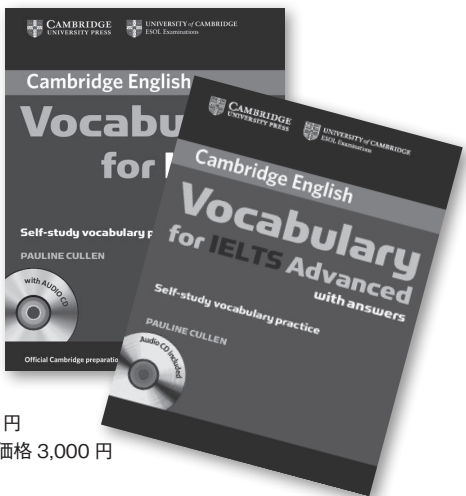
【 Cambridge Vocabulary for IELTS 】

語彙学習のヒント満載

IELTS ライティング、スピーキングで役立つ語彙を学習できます。Cambridge Learner Corpus より、実際にあった誤回答を例に学習者が間違えやすい項目を取り上げ解説。テスト受験時のヒントや語彙学習のヒントも随所で提供しています。Academic, General Training の Reading, Writing, Listening のテスト練習問題も収録されています。

Cambridge Vocabulary for IELTS 本体価格 3,000 円

Cambridge Vocabulary for IELTS Advanced 本体価格 3,000 円



上手な 活用法

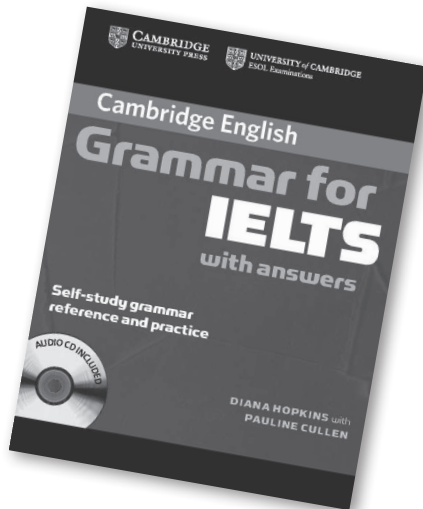
まずは Units 21 & 22 Language Building からスタート。辞書の使い方、新しい語彙の学び方など学習に関するヒントが紹介されています。これを終えたら、Unit 1 から順に学んでいきましょう。

【 Cambridge Grammar for IELTS 】

文法を完全カバー

IELTS 受験に必要な文法項目を完全カバーしています。IELTS には文法に特化したモジュールはありませんが、文法を理解し適切に使用することは、IELTS 受験において大事な要素の一つです。全ての文法項目は実際に使われる状況の中でリスニングエクササイズを通して紹介されるため、リスニングスキルも強化されます。Academic, General Training の Reading, Writing, Listening のテスト練習問題も収録されています。

Cambridge Grammar for IELTS 本体価格 3,880 円



上手な 活用法

Unit 1 から学習を始めるのも OK、巻頭の Entry test で苦手な文法項目を見つけ、それをカバーするユニットからスタートするのもお勧めです。各ユニット内では A から順を追って学びましょう。

Vol.9 カリフォルニア大学ロサンゼルス校 瀧澤 誓さん

留学で培う3つの力

物理学の最先端の研究に触れる

私は、2012年9月から2013年6月末まで大学の交換留学プログラムにより、カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）で物理学を専攻しました。

UCLA ではさまざまな物理の謎の解明や、最先端の研究に携わる機会を多く得ることができ、非常に実りの多い一年間を過ごすことができました。

ちから

1

わかりやすく表現する力

刺激を与えてくれた教授や学生の表現力

留学先ではすべての授業がわかりやすく、パフォーマンスも上手くまとめられていました。

どの教授も授業が一つのストーリーのように、落ち着いて喋るところ、笑いを取るところ、押さえて欲しいと強調するところを意識していたのです。英語という言語を通じて、多様な価値観ないしは文化を持った多くの生徒に物事をわかりやすく理解させるために、その伝え方はとても洗練されていました。

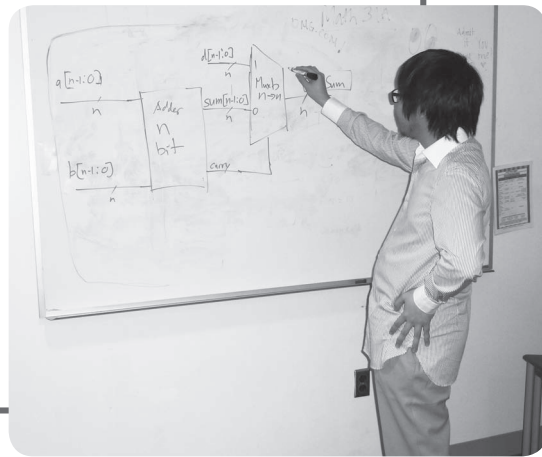
生徒同士でグループを作って製品のデザインをする授業では、教授や研究者だけでなく、生徒も自分の意見を効率良く伝えるために、巧みな英語表現、説得性のある語調、時にはボディランゲージを交えて自分の考えを表現します。

その体験は、自分にとってはとても刺激的なものでした。自分もこの人たちのように上手く伝えたい、わかりやすく自分の意見を表現したい、と思い始めるきっかけとなったのです。日本語で学んだこと、日本語でも難しくてどうやって伝えていいのかわからない概念を、一体どう英語で伝えようかと、教授やほかの学生を見ながら、どんなコツが必要なのかを学びました。もちろん、なかなか見よう見まねでは上手くいきません。

最終的に、自分の意見を発表する前に準備時間があつた場合は、ある程度の専門的な単語は頭に入れたうえで、質問がきたらもっとシンプルな知識で理解して再構成できるよう、頭の中で考えるようにしました。

すると、ただ人に対して物をうまく表現できるようになっただけではなく、ある程度の質問にも答え、教えられるようになりました。それらを長期間記憶し、テストで簡単に記述できるようにもなりました。また、わかりやすい表現を英語で構成しようとする努力が、理論のつながりを認識することや、専門用語に頼らずに複雑な事象をシンプルに分解して深い知識を得ることにつながっていたのです。これはとても大きな副産物でした。

授業は学生主体で進んでいく。



異文化に触れ、多様な価値観に出会える海外留学。

「IELTS 北米奨学金」「IELTS Study UK 奨学金」の受賞者は、留学でどんな力を培ったのだろうか。

UCLA で物理学を学んだ瀧澤誓さんに、留学で磨かれた3つの力について聞いてみた。

ちから

2

正確に分析する力

自分の理解度にも時には疑問を投げかけて

留学中には多くの課題が出ました。課題の内容はいろいろで、データをコンピュータで解析する、論文を読んで批判を作成する、普通に問題を解く課題などです。そのすべての課題に共通して必要だったのが、「正確に分析する力」でした。

このデータがどんな主張を裏づけ得るのか、この論文は本当に正しいと言えることができるのか、この問題は一体どの現象の理解を試しているのか——それらを正確に分析することができれば難しい課題ばかりだったため、自然と正確に分析する力が培われていったのです。

しかし、分析とは、データや他の問題にのみ向けられるものではありません。ある日、量子力学の授業中に教授がこう言いました。

「僕と君たちとの違いは、僕は自分がわからないということをわかっている」
衝撃的なひと言でしたが、すぐに何を

言っているのかが身に染みてわかりました。物理学ではしばしば今の自分では解けない難問や、どう解釈していいのかわからない前提が出てきます、そのときに一体自分が何を理解していないのか、自分の知識のどの部分が一般的な前提とずれているのか、ということ进行分析して認めなければいけないということ、いわば、「自分が何を分析できないのかを分析するべきだ」ということを教授は示していたのです。

それは簡単に思えて、悩ませられる問題でした。ひとつの問題に頭を使っていると、自分のどこがおかしいのか気づくことはなかなか難しいものです。ときには他人の力を得ながら、ときにはある程度割りきって、自分の理解に対して柔らかく疑問を投げかけることも必要になってくるのです。

物理学の学舎。多くの著名な研究者がここで学んだ。



緑豊かな学生寮。寮生とはスポーツ交流も。



ちから

3

言葉を丁寧に扱う力

日常の会話からきちんと言葉と向き合う

書く、話す、聞く、考える。このすべての中心には言葉があります。

留学先で、使う言葉が日本語から英語に変わりました。これは予想していた以上に大きな変化でした。日本語で考えていることを、単純に単語ごとに英語に置き換えても稚拙な表現となってしまう。場合によっては正確さに欠く、自分の意図しない方向で表現が認識されてしまう原因にもなり得るのです。

こういった表現をどういう感情の時に使うのか、あるいはこの単語は本当にこの状況に適切な言葉なのか、ということ、実際にその場で周りの人の反応を見ないとわからない部分もありました。

友人同士で使う英語でも、日本の教科書や辞書では違う意味で載っている単語が口語的に使われることがあります。授業や研究では、科学用語を適当に扱うと、理解してもらえないこともありました。

日本語を母国語としてしていると、自分が日本語で喋っているとき、書いているとき、聞いているときに、いかに言葉に繊細であるかということをついつい忘れてしまいますが、文法などの問題以前に、本来は適切な日本語表現が存在している、それに則って自分は会話しているのです。

この言葉の問題は、一度気づけばすぐに解決に向かいました。ときには授業中に、ときには友人と遊んでいるときに、

ときにはルームメイトと今日あったことを話しているときに、できるかぎり丁寧に言葉を扱うことを意識しました。

これらの3つの力に共通して言えるのは、おそらく長期的に磨き続けていかなければならない能力だということでしょう。わかりやすく表現する力も、正確に分析する力も、言語を丁寧に扱う力も、留学をしたことで気づかされ、留学先で助けを得て大きく成長しましたが、今でも磨き続けています。

英検公益財団法人
日本英語検定協会公益財団法人として、英検は最適なパートナー団体や企業と共に
A B C D E Fの支援を通じてSGHを応援していきます。

「スーパーグローバルハイスクール」 取り組み支援のご案内

Ask

英検 × **FGER**

いま世界の国々ではどのような問題が起こっているのだろう？**F**oreign **G**overnment **E**ducational **R**epresentativeは、アメリカ・イギリス・カナダ・オーストラリア・フランス・イタリアの大使館・公的機関の教育担当官連合です。テーマ設定・課題発見を行う過程で、まず諸外国で起きている事情を正確に把握する必要があります。英検は学校、先生、そして生徒とFGERを繋ぐ取り組みを長く行っており、在外公館が持つ多面的な性質と魅力を活かしたコーディネーションを行っています。



Broadcast

英検 × **The Japan Times**

「日本からグローバルに発信したい」や「課題の解決や研究の成果物を発信したい」という要望に最も応えられるのは、当然の事ながらノウハウを持っている英字新聞社ではないでしょうか。**The Japan Times**と英検は、数多くの共同刊行物を「Newspaper」という形で発行して参りました。例えばSGHの取り組みを英字新聞に掲載したい、英語で著名人にインタビューして記事にしてみたい、、、ご要望をいただければ、より効果的なアピール方法をご提案致します。



Collaborate

英検 × **SIO**

日本の大学はいま猛スピードでグローバル展開を進めております。そのエンジンとなっているのは、**S**enior **I**nternational **O**fficerと呼ばれる国際教育交流に造詣の深い教職員です。英検は全国のグローバル化を牽引する大学に、留学準備講座の企画立案、グローバル人材に必要な実践的英語講座の運営、IELTS特別会場受験機会提供など、様々な形で国際交流推進の支援を行っており、その中でSIOとのネットワークを幅広く構築して参りました。SIOの専門は多岐に渡りますが、必ず共通しているのは「グローバル人材育成への熱い思い」です。様々なテーマを掲げるSGHの、良き道案内役となるSIOをご紹介します、共同研究等への足がかりになれば幸いです。



Debate

英検 × **ESUJ**

いまグローバルリーダーに最も求められているスキルは、瞬時に判断する力、論理的に考える力、そしてその両方を組み合わせて周りを説得し、引っ張っていくチームビルディング力ではないでしょうか。**E**nglish **S**peaking **U**nion of **J**apan（日本英語交流連盟）と英検は、パラメンタリーディベート（即興ディベート）の普及を通じて、グローバルリーダーに必要なスキル向上を目指し活動して参りました。ESUJ及び英検では、SGHへのディベート講師派遣、ジャッジ兼講評者の紹介、地域大会の企画運営等で、日本におけるパラメンタリーディベートのさらなる普及に寄与していければと願っております。



Examine

英検 × **GLRG**

英検協会の部局横断プロジェクト、**G**lobal **L**eadership **R**esearch **G**roupでは、定期的にグローバルリーダーになるための過程や素養について研究を進めております。企業・NGO・大学等のグローバルリーダーに直にお会いする機会も多く、その現在の立ち振る舞いから生い立ちにまで踏み込んでインタビューをさせていただくと、リーダー達は困難な課題にいつも直面しながらも、何よりも現状を楽しんでいるという共通因子が所見されました。英検では、SGHのテーマ及び課題設定のお手伝いをさせていただきながら、並行してGLRGでフィージビリティスタディーをサポートさせていただきます。「私の町を世界遺産にしたい」「僕の町の空港のワールドランキングを上げる」「"おもてなし"という単語を英英辞書に掲載させる」、まずはブレインストームでアイデアを膨らませ、SGHとGLRGで協力しながら課題解決までに必要なリソースを検証していきます。



Fly

英検 × **A.C.E.**

高校生のうちから世界に飛び出し、様々な経験を積むことはグローバルリーダーの大切な下地となることは言うまでもありません。**A**ssociates in **C**ultural **E**xchangeはシアトルの非営利教育機関で、北米における英検の業務提携先でもあります。英検の海外認定活動や国立大学職員研修の企画運営など、その活動の幅は広く、特に得意としているのはオーダーメイドの海外研修です。例えばマイクロソフトやボーイングといったグローバル企業とのコラボ、ワシントン州立大学やシアトルパシフィック大学との共同事業など、課題解決型の研修を展開し、多くの成果をあげています。現地での課題を踏まえた国内の事前研修は、英検が協力をさせていただきます。

**お気軽に
ご相談ください！****公益財団法人 日本英語検定協会 教育事業部国際課**

※ 通訳案内士、元旅行会社北米支店アシスタントマネージャー、途上国ボランティア経験者、海外渡航経験ゼロの英検1級・TOEIC満点ホルダーなどの様々な経歴を持つマーケティングスタッフが、SGH担当教職員様と一緒に考え、ご提案致します！

担当：塩崎（関東・東海）、森岡（関西・中国）、西畑（甲信越・四国・九州・沖縄）、安藤（北海道・東北）

TEL: 03-3266-6121 Email: support-kokusai@eiken.or.jp